

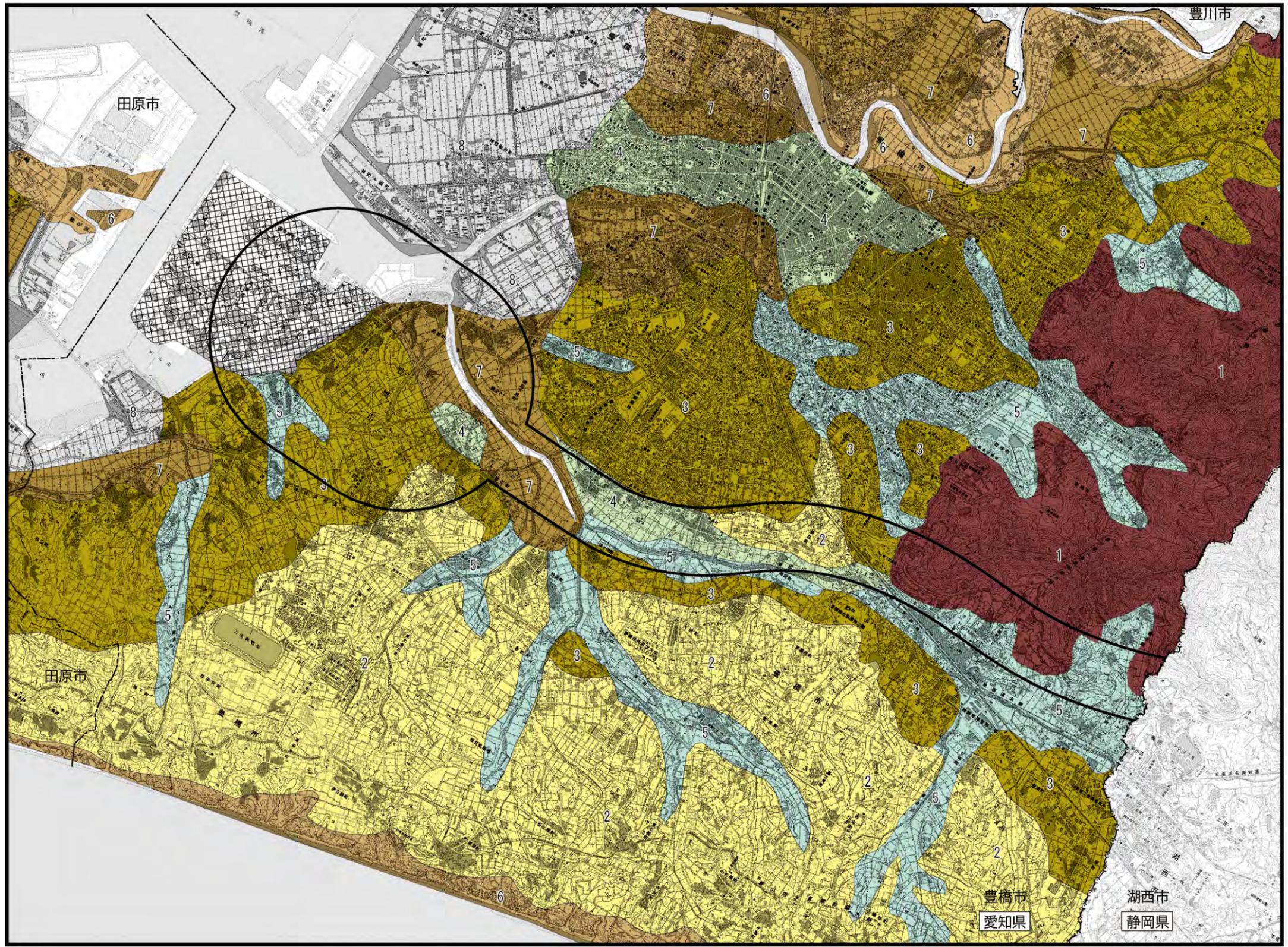
1.4. 地形及び地質の状況

(1) 地形及び地質の状況

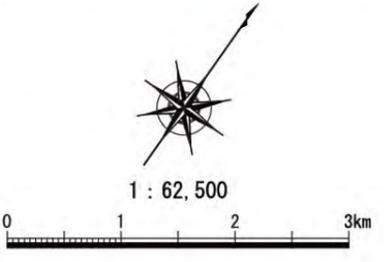
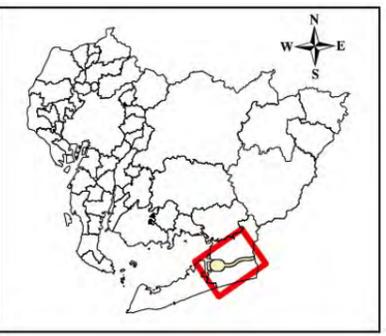
調査区域における地形の状況は、図 4-1-21 に示すとおりです。事業実施区域は、北東側に小起伏山地（弓張山地）があるほかは、概ね地形は平坦で、砂礫台地（上位、中位、下位）が広く分布するほか、河川沿いは扇状地性低地（氾濫原性低地）、三角州性低地が広がります。三河港周辺には干拓地・盛土地が分布しています。

調査区域における表層地質の状況は、図 4-1-22 に示すとおりです。事業実施区域の北東側の山地（弓張山地）では主に多米ユニットのチャートや混在岩（凡例：Tc、Tx）及び雲谷ユニットのチャートや砂岩等（凡例：Uc、Us、Ux）が分布します。その他の台地・低地では、泥・砂および礫（凡例：Fk、Mo、bm 等）が分布しています。

軟弱地盤と考えられる礎・砂・泥等が堆積した地質は、図 4-1-23 に示すとおりです。軟弱地盤は主に河川沿いの水田地帯に分布しており、事業実施区域には、軟弱地盤が存在します。

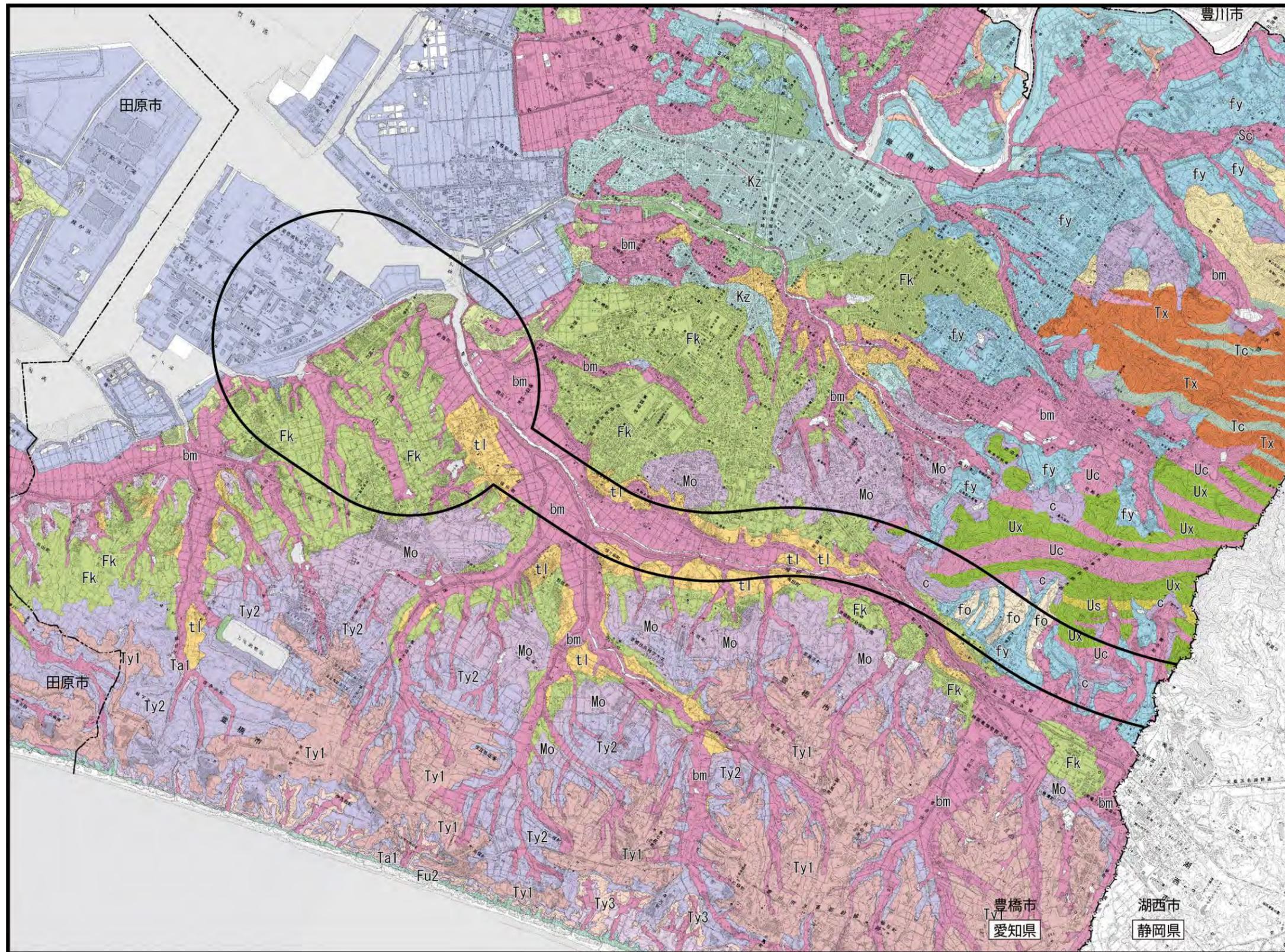


- 凡 例
- : 都市計画対象道路
事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
- 山地
- : 1 小起伏山地
- 台地段丘
- : 2 砂礫台地 (上位)
 - : 3 砂礫台地 (中位)
 - : 4 砂礫台地 (下位)
- 低地
- : 5 扇状地性低地
(氾濫原性低地)
 - : 6 自然堤防・砂州・砂丘
 - : 7 三角州性低地
- 埋立地
- : 8 干拓地
 - : 9 埋立地・盛土



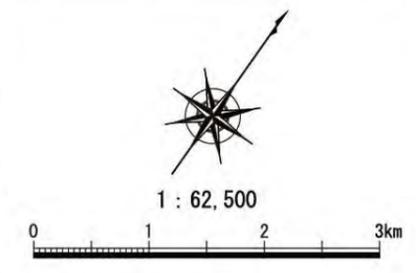
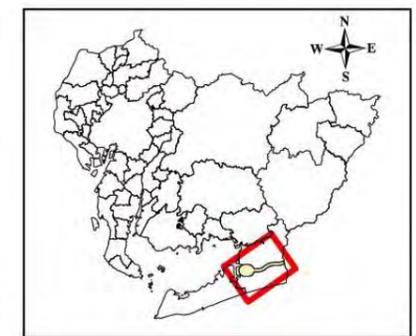
出典：「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)

図 4-1-21 地形分類図



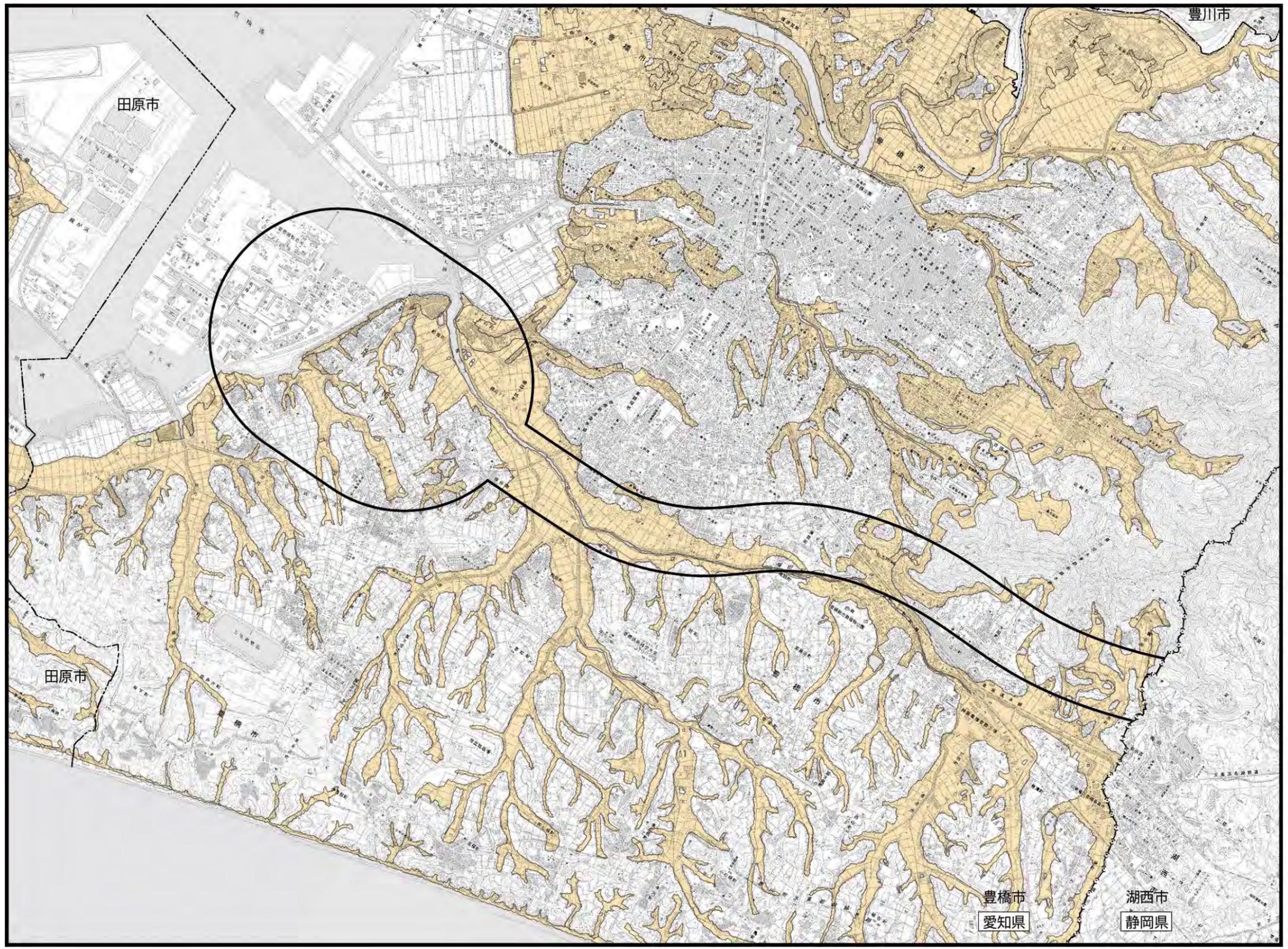
- 凡例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界

- | | | | |
|--|---------------|-----|---------------------|
| | 福江層 | Fk | 泥・砂および礫 |
| | 南大清水層 | Mo | 泥、砂及び礫 |
| | 高井ユニット | Sc | チャート |
| | | Sx | 混在岩 |
| | | Tc | チャート |
| | 多米ユニット | Tx | 混在岩 |
| | | Ty1 | 礫および砂 |
| | 天伯原礫部層 | Ty2 | 砂および礫 |
| | 杉山砂部層 | Ty3 | 泥・砂および礫 |
| | 寺沢泥部層 | Ta1 | 砂・礫および泥 |
| | 豊島砂礫部層 | Fu2 | 泥・砂および礫 |
| | 細谷砂部層 | Uc | チャート |
| | 雲谷ユニット | Us | 砂岩 |
| | | Ux | 破断した砂岩泥岩および砂岩の岩塊を含む |
| | 後背湿地及び谷底低地堆積物 | bm | 泥・砂・礫および腐植土 |
| | 前積堆積物及び沖積堆積物 | c | 砂礫・砂および泥 |
| | 新期扇状地堆積物 | fy | 礫・砂および泥 |
| | 旧期扇状地堆積物 | fo | 礫・砂および泥 |
| | 小坂井層 | k2 | 礫・砂および泥 |
| | 低位段丘堆積物 | t1 | 礫・砂および泥 |
| | 埋立地 | | |

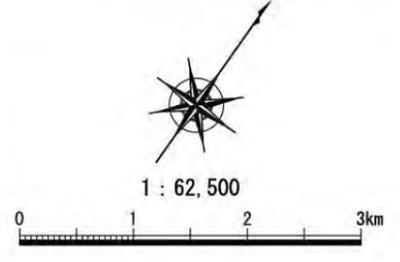
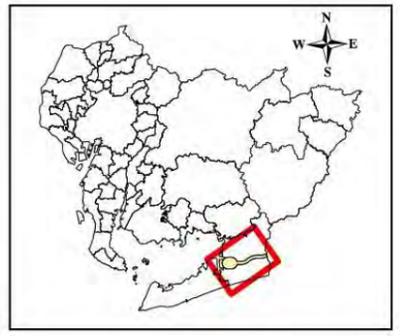


出典：5万分の1地質図幅(国立研究開発法人 産業技術総合研究所ホームページ) (対象図幅：浜松、豊橋および田原、三河大野)

図 4-1-22 表層地質図



- 凡 例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
 - : 軟弱地盤



出典：「豊橋及び田原地質図カタログ」（平成20年度、産総研地質調査総合センター）
 「文化財ナビあいち」（愛知県ホームページ）

図 4-1-23 軟弱地盤図

(2) 重要な地形及び地質の状況

調査区域に分布する重要な地形及び地質の概要は、表 4-1-49 及び図 4-1-24 に示すとおりです。事業実施区域には、愛知県天然記念物として指定されている重要な地形及び地質として、高師小僧があります。また、豊橋市自然環境保全基礎調査報告書によって報告される重要な地形及び地質として、岩屋観音・火打坂があります。

なお、「日本の地形レッドデータブック第1集－危機にある地形－」(平成12年12月、小泉武栄、青木賢人)に掲載された危機にある地形、「日本の地形レッドデータブック第2集－保存すべき地形－」(平成12年3月、小泉武栄、青木賢人)及び「わが国の失われつつある土壌の保全をめざして－レッド・データ土壌の保全－」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)に掲載された、学術上又は希少性の観点から重要とされる地形及び地質は存在しません。

表 4-1-49 重要な地形及び地質の概要

No.	名称	概要	重要度の分類基準	出典
1	高師小僧	褐鉄鉱質団塊よりなり、棒状、いも状、樹枝状その他種々なる形状をなす。大部分は地層中に直立して産出する。高師原は豊富に産し、初めて標式地として高師小僧の名称が与えられた所である。	①a	1
2	岩屋観音・火打坂	岩屋山はチャートの岩塊からなる山で、表面の岩石は風化で茶褐色に変色しているが、割った新鮮な面は青みがかかった泥岩基質のチャートからなる。珪質で緻密なチャートは、古くは火打石として利用されており、火打坂の名の由来となっている。	②b	2
3	灰岩地形及び砂丘・斜交層理	「第1回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」に掲載されている。	②a	3

注1) 地点番号は図4-1-24に対応する。

重要度の分類基準：

- ①法律、条例等によって定められた重要な地形及び地質
- ②法令等の規定はないが学術上又は希少性の観点で重要と判断される場合のある地形及び地質
 - a: 公的機関によって定められた重要な地形及び地質
 - b: 学会等で定められた重要な地形及び地質

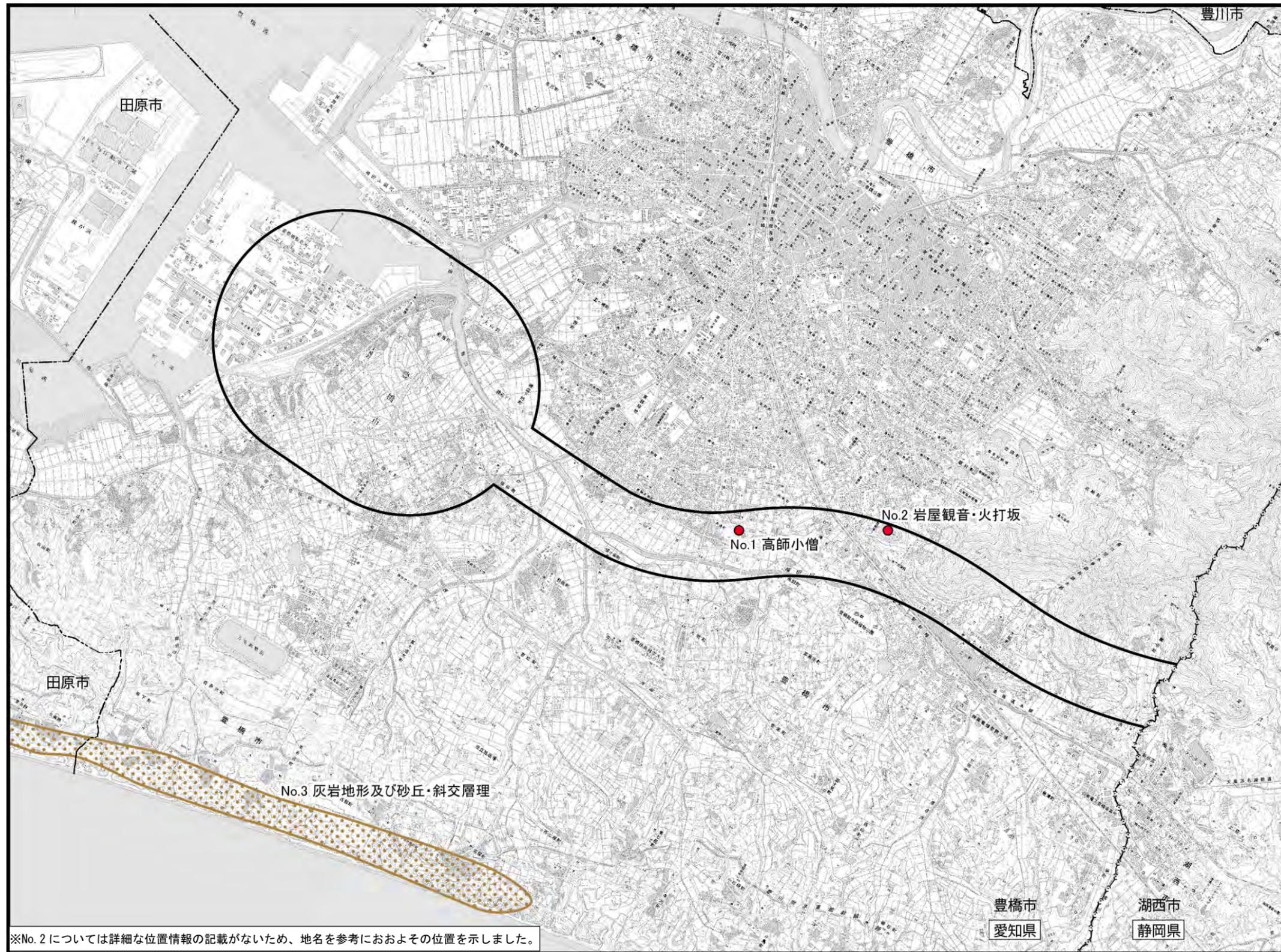
出典：1. 「文化財ナビあいち」(愛知県ホームページ)

2. 「豊橋市自然環境保全基礎調査 報告書」(平成27年3月、豊橋市)

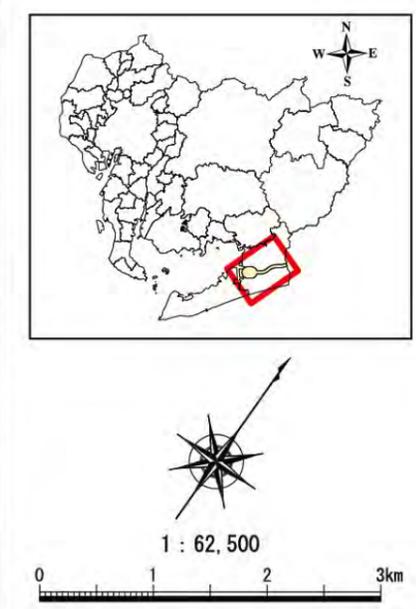
3. 「第1回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)

(3) 活断層の状況

「活断層データベース」(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)によると、調査区域には活断層は存在していません。



- 凡 例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
 - : 重要な地形及び地質
 - : 重要な地形及び地質(範囲)



※No. 2 については詳細な位置情報の記載がないため、地名を参考におおよその位置を示しました。

出典：「文化財ナビあいち」（愛知県ホームページ）
 「豊橋市自然環境保全基礎調査 報告書」（平成27年3月、豊橋市）
 「田原市環境保全計画（案）改訂版」
 「第1回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」（昭和51年、環境庁）

図 4-1-24 重要な地形及び地質

1.5. 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 使用文献一覧

事業実施区域の周囲における動植物の生息及び生育の状況を把握するため、事業実施区域の周囲における確認種を抽出しました。対象地域は愛知県豊橋市及び田原市としました。

使用文献の一覧を表 4-1-50(1)～(2)に示します。

表 4-1-50(1) 動植物の生息又は生育状況の把握に用いた文献・資料

文献番号	文献名	発行元/発行年	項目											
			哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	昆虫類	魚類	底生動物	クモ類	陸産貝類	植物		
1	第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図	環境庁、昭和51年		●										
2	第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和5年4月	●	●	●	●	●	●						
3	第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和5年4月	●	●	●	●	●	●	●			●		
4	第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和5年4月	●	●	●	●	●	●	●			●		
5	第5回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和5年4月	●		●	●	●	●	●			●		
6	第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和5年4月	●	●										
7	愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-	愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
8	愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-植物編-	愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和2年3月												●
9	グリーンデータブックあいち2017	愛知県、平成29年12月												●
10	グリーンデータブックあいち2018	愛知県、平成30年12月		●	●	●	●	●			●			●
11	愛知県鳥類生息調査 (2015～2021)	愛知県環境局 HP、閲覧：令和5年4月		●										
12	愛知県の河口域魚類 荒尾一樹・山上将史・大仲知樹	豊橋市自然史博物館研究報告第17号、平成19年3月						●						
13	サイエンスミュージアムネット	国立科学博物館 HP、閲覧：令和4年8月	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
14	植物からの Save our species! : 愛知県の絶滅危惧植物	愛知県植物史調査会、平成8年												●
15	日本のシダ植物図鑑 : 分布・生態・分類	東京大学出版会、平成16年												●
16	愛知県史・別編・自然	愛知県、平成22年							●			●	●	●
17	環境省いきものログ	環境省生物多様性センター HP、閲覧：令和4年8月	●	●	●		●	●						●

表 4-1-50(2) 動植物の生息又は生育状況の把握に用いた文献・資料

文献番号	文献名	発行元/発行年	項目																	
			哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	昆虫類	魚類	底生動物	クモ類	陸産貝類	植物								
18	令和3年度(2021年度)中大型哺乳類分布調査報告書ータヌキ・キツネ・アナグマ	環境省自然環境局生物多様性センター、令和4年3月	●																	
19	シカ情報マップ	愛知県森林・林業技術センターHP、閲覧：令和4年8月	●																	
20	愛知の野鳥 1995	愛知県農地林務部自然保護課、平成8年3月		●																
21	愛知県の両生類・は虫類	愛知県農地林務部自然保護課、平成8年3月			●	●														
22	第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ管理)	愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和4年3月	●																	
23	第二種特定鳥獣管理計画(イノシシ管理)	愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和4年3月	●																	
24	第二種特定鳥獣管理計画(カモシカ管理)	愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和4年3月	●																	
25	豊橋市自然環境保全基礎調査報告書・資料編	豊橋市保健環境部環境対策課、平成11年3月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26	豊橋市自然環境保全基礎調査報告書	豊橋市環境部環境保全課、平成27年3月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
27	豊橋の自然探検～守ろう！とよはしネイチャースポット2016～	豊橋市、平成28年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
28	アカウミガメのしらべ	豊橋市、平成15年3月				●														
29	アカウミガメのあしあと	豊橋市、平成25年3月				●														
30	愛知の動物	佐藤正孝・安藤尚、昭和59年11月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
31	豊橋市の植物	小林元男、平成13年6月																		●
32	フィールドサイエンス いきいき！生きもの観察ガイド 愛知県版	三河生物同好会 編、平成12年6月		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
33	豊橋市自然史博物館研究報告	豊橋市自然史博物館 HP、閲覧：令和5年4月			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34	このはずく	東三河野鳥同好会、平成29年～令和4年		●																
35	西三河野鳥の会研究年報	西三河野鳥の会、平成29年～令和3年		●																
36	蟲譜	三河生物同好会、平成29年～令和5年	●					●	●											●
37	全国鳥類繁殖分布調査報告	鳥類繁殖分布調査会		●																
38	全国鳥類越冬分布調査報告	バードリサーチ、日本野鳥の会		●																
39	三河地方初記録の淡水生二枚貝フネドブガイ	西 浩孝、坂本博一、松岡敬二										●								
40	愛知県名古屋市、豊橋市、山梨県北杜市で発見された <i>Buldowskia shadini</i> ヤハズヌマガイ(新称)	川瀬基弘、横山悠理、横井敦史、熊澤慶伯										●								

(2) 動物の生息の状況

1) 動物相の状況

① 哺乳類の概況

調査区域において生息記録のある哺乳類として、ジネズミ、ニホンザル、カヤネズミ、ニホンアナグマ等を含む7目18科35種が確認されています。

② 鳥類の概況

調査区域において生息記録のある鳥類として、ミサゴやオオタカ等の猛禽類をはじめ、カイツブリ、チュウサギ、セッカ、ホオジロ等を含む23目68科353種が確認されています。

③ 両生類の概況

調査区域において生息記録のある両生類として、ヤマトサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ヌマガエル等を含む2目5科14種が確認されています。

④ 爬虫類の概況

調査区域において生息記録のある爬虫類として、アカウミガメ、クサガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、ヤマカガシ等を含む2目11科17種が確認されています。

⑤ 魚類の概況

調査区域において生息記録のある魚類として、コイ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ドンコ、カワヨシノボリ等を含む24目164科570種が確認されています。

⑥ 昆虫類の概況

調査区域において生息記録のある昆虫類として、コバネアオイトトンボ、ベッコウトンボ、シャープゲンゴロウモドキ等を含む12目222科2,735種が確認されています。

⑦ 底生動物の概況

調査区域において生息記録のある底生動物として、マルタニシ、マツカサガイ等を含む28目74科154種が確認されています。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の概況

調査区域において生息記録のあるクモ類として、ジグモ、キノボリトタテグモ、アシブトヒメグモ、テナガグモ等を含む1目38科294種が確認されています。

(b) 陸産貝類の概況

調査区域において生息記録のある陸産貝類として、ゴマオカタニシ、スジケシガイ、ツムガタギセル等を含む5目22科132種が確認されています。

2) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

動物の重要な種の選定基準を表 4-1-51(1)～(2)に示します。

表 4-1-51(1) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別天然記念物（特天） ・ 天然記念物（天）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号、最終改正：令和 2 年 12 月 16 日政令第 352 号）に基づく国内希少野生動植物種等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内希少野生動植物種（国内） ・ 緊急指定種（緊急）
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県指定種（県指）
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：平成 22 年 3 月 26 日愛知県条例第 12 号）に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県指定種（県指）
5	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・ CR：絶滅危惧 I A 類 ・ EN：絶滅危惧 I B 類 ・ VU：絶滅危惧 II 類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：絶滅のおそれのある地域個体群
6	「静岡県版レッドリスト 2020」（静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・ CR：絶滅危惧 I A 類 ・ EN：絶滅危惧 I B 類 ・ VU：絶滅危惧 II 類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群 要注目種：（静岡県独自の 카테고리） <ul style="list-style-type: none"> ・ N-I：現状不明 ・ N-II：分布上注目種等 ・ N-III：部会注目種
7	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・ CR：絶滅危惧 I A 類 ・ EN：絶滅危惧 I B 類 ・ VU：絶滅危惧 II 類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群

表 4-1-51(2) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
8	「愛知県立自然公園条例」（昭和 43 年 3 月 29 日愛知県条例第 7 号、最終改正：令和 4 年 7 月 5 日愛知県条例第 41 号）に基づく石巻山多米県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	・○：愛知指定
9	「環境省海洋生物レッドリスト」（環境省、平成 29 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・CR：絶滅危惧ⅠA類 ・EN：絶滅危惧ⅠB類 ・VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群

① 哺乳類の重要な種

調査区域において確認記録のある哺乳類の重要な種は、ヤマコウモリ、ツキノワグマ等の6目10科16種で、表4-1-52に示すとおりです。

なお、哺乳類については調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-52 文献により確認された哺乳類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	モグラ	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ							LP			
2		モグラ	アズマモグラ							VU			
3			コウベモグラ							LP			
4	コウモリ	キクガシラコウモリ	ニホンコキクガシラコウモリ							NT	NT		
5			キクガシラコウモリ							NT	NT		
6		ヒナコウモリ	ヤマコウモリ						VU	DD	CR		
7	ウサギ	ウサギ	キュウシュウノウサギ								NT		
8	ネズミ	リス	ニホンリス							N-III	NT		
9			ホンドモモンガ							DD	EN		
10			ニッコウムササビ							NT	NT		
11		ネズミ	スミスネズミ								NT		
12			ホンシュウカヤネズミ							NT	VU		
13	ネコ	クマ	ツキノワグマ								CR		
14		イタチ	ホンドテン								NT		
15			ニホンアナグマ								DD		
16	ウシ	ウシ	カモシカ	特天									
計	6目	10科	16種	1種	0種	0種	0種	1種	7種	15種	0種	0種	

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

② 鳥類の重要な種

調査区域において確認記録のある鳥類の重要な種は、マガン、オオタカ等の 15 目 38 科 133 種で、表 4-1-53(1)～(4)に示すとおりです。

なお、鳥類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-53(1) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準											
				1	2	3	4	5	6	7			8	9	
										越冬	繁殖	通過			
1	キジ	キジ	ウズラ					VU	VU	EN					
2			ヤマドリ						NT						
3	カモ	カモ	サカツラガン					DD							
4			ヒシクイ	天				VU							
5			オオヒシクイ					NT							
6			マガン					NT							
7			カリガネ					EN							
8			コクガン					VU							
9			ツクシガモ					VU							
10			アカツクシガモ					DD							
11			オシドリ					DD			NT				
12			トモエガモ					VU	VU	VU					
13			アカハジロ					DD							
14			シノリガモ						NT	VU					
15			ビロードキンクロ							EN					
16			クロガモ							NT					
17			ミコアイサ						NT						
18			カワアイサ							NT					
19		カイツブリ	アカエリカイツブリ							EN					
20			ミミカイツブリ							NT					
21	ミズナギドリ	アホウドリ	コアホウドリ					EN							
22		ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ					DD							
23	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ					CR							
24	カツオドリ	ウ	ヒメウ					EN		NT					
25	ペリカン	サギ	サンカノゴイ					EN	EN				EN		
26			ヨシゴイ					NT	EN		CR	CR			
27			オオヨシゴイ					CR							
28			ミゾゴイ					VU	EN		EN	VU			
29			ゴイサギ						N-III						
30			ササゴイ						EN						
31			チュウサギ					NT							
32			クロサギ							EN					
33			カラシラサギ					NT					NT		
34	ツル	トキ	クロトキ					DD							
35			ヘラサギ					DD							
36			クロツラヘラサギ		国内			EN		VU					
37			ナベヅル					VU							
38		クイナ	シマクイナ					EN							
39			クイナ						NT	NT					
40			ヒクイナ					NT	VU		NT	NT			
41			バン							NT	VU				
42	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ									VU	NT		
43			ツツドリ									VU	NT		
44			カッコウ									VU	NT		
45	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ					NT	VU		EN	VU			

表 4-1-53(2) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準													
				1	2	3	4	5	6	7			8	9			
										越冬	繁殖	通過					
46	チドリ	チドリ	タゲリ						NT								
47			ケリ					DD									
48			イカルチドリ						NT	NT	VU						
49			シロチドリ						VU	VU	VU	VU					
50		セイタカシギ	シギ	セイタカシギ					VU	NT	VU	EN					
51				ヤマシギ						DD	NT						
52				アオシギ								VU					
53				オオジシギ						NT	N-II	VU	CR				
54				オオハシシギ							N-II	EN					
55				シベリアオオハシシギ						DD					CR		
56				オグロシギ								VU			EN		
57				オオソリハシシギ							VU	VU			EN		
58				コシャクシギ							EN				VU		
59				ダイシャクシギ								VU	VU				
60				ホウロクシギ							VU	VU			EN		
61				ツルシギ							VU	EN			EN		
62				アカアシシギ							VU	VU			VU		
63				コアアシシギ								VU					
64				カラフトアオアシシギ			国内				CR				CR		
65				タカブシギ							VU	VU			EN		
66				メリケンキアシシギ											EN		
67				オバシギ											VU		
68				コオバシギ											VU		
69				ミュビシギ								NT	NT				
70				オジロトウネン								VU			VU		
71				ヒバリシギ								VU					
72				ウズラシギ								VU			EN		
73				ハマシギ							NT	VU	VU				
74				ヘラシギ			国内				CR	CR			CR		
75				キリアイ								VU			EN		
76		エリマキシギ											VU				
77		タマシギ	タマシギ						VU	VU	EN	EN					
78		ツバメチドリ	ツバメチドリ						VU			CR	EN				
79		カモメ	ズグロカモメ						VU		VU						
80			オオセグロカモメ						NT								
81			オオアジサシ							VU				VU			
82			コアジサシ							VU	EN		EN	VU			
83			ベニアジサシ							VU							
84		ウミスズメ	ウミガラス						CR								
85			ケイマフリ						VU								
86			マダラウミスズメ							DD							
87			ウミスズメ							CR							
88			カンムリウミスズメ	天					VU	CR							
89		タカ	ミサゴ						NT	N-III		NT					
90		タカ	ハチクマ						NT	VU		VU	NT				
91			オジロワシ	天	国内					VU	EN						
92			オオワシ	天	国内					VU	N-II						
93			チュウヒ		国内					EN	EN	VU	CR				
94			ハイロチュウヒ								N-II	EN					
95	ツミ												NT				
96	ハイタカ								NT	VU							
97	オオタカ								NT	NT	NT	NT					
98			サシバ						VU	VU		EN	NT 渡り群 :LP				
99			クマタカ		国内				EN	VU	EN	EN					

表 4-1-53(3) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準											
				1	2	3	4	5	6	7			8	9	
										越冬	繁殖	通過			
100	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク						DD	NT	VU				
101			コノハズク				指定		EN		CR	VU			
102			フクロウ						NT	NT	NT				
103			アオバズク						VU		EN	VU			
104			トラフズク						DD						
105			コミミズク						EN	VU					
106	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン						VU		VU	NT			
107			ヤマセミ						EN	EN	CR				
108		ブッポウソウ	ブッポウソウ					EN	CR		EN	VU			
109	キツツキ	キツツキ	アリスイ						NT						
110			オオアカゲラ						NT	NT	VU				
111			コチョウゲンボウ						N-III						
112			ハヤブサ		国内				VU	VU	NT	VU			
113	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ						VU	EN					
114		カササギヒタキ	サンコウチョウ							NT					
115		モズ	アカモズ						EN						
116		ツバメ	コシアカツバメ							VU					
117		ムシクイ	オオムシクイ							DD					
118		メジロ	メジロ							EX					
119		センニュウ	オオセッカ		国内					EN	EN	EN			
120		キバシリ	キバシリ								NT	VU			
121		ミソサザイ	ミソサザイ									NT			
122		カワガラス	カワガラス								VU	VU			
123		ヒタキ	マミジロ								VU		EX	NT	
124			アカハラ										CR		
125			コマドリ										CR	NT	
126			コルリ										NT		
127			ノビタキ									N-II			
128			コサメビタキ									VU		NT	
129	セキレイ	ビンズイ										EX			
130	ホオジロ	ホオアカ										CR			
131		ミヤマホオジロ									NT				
132		シマアオジ								CR					
133		コジュリン								VU	VU	VU			
計	15目	38科	133種	4種	9種	0種	1種	71種	69種	53種	42種	53種	0種	0種	

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト ((公) リバーフロント研究所、令和3年)」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

③ 両生類の重要な種

調査区域において確認記録のある両生類の重要な種は、ヤマトサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル等の2目4科10種で、表4-1-54に示すとおりです。

なお、文献調査により確認された両生類の詳細な位置は、後掲の図4-1-25に示すとおりです。

表4-1-54 文献により確認された両生類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ					VU				
2			ヤマトサンショウウオ					VU		EN		
3			アカハライモリ				県指	NT	NT	※CR, NT		
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル						N-III			
5		アマガエル	タゴガエル						N-III			
6		アカガエル	ナガレタゴガエル				県指		DD	CR		
7			ニホンアカガエル						VU			
8			トノサマガエル						NT	NT		
9			ナゴヤダルマガエル						EN	CR	VU	
10			ツチガエル						NT			
計	2目	4科	10種	0種	0種	0種	2種	5種	8種	4種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト((公)リバーフロント研究所、令和3年)」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

注3) アカハライモリ→渥美種族：CR、中間種族：NTに該当。

④ 爬虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある爬虫類の重要な種は、アカウミガメ、クサガメ、ニホンスッポン等の2目7科9種で、表4-1-55に示すとおりです。

なお、爬虫類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-55 文献により確認された爬虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	カメ	ウミガメ	アカウミガメ					NT	NT	NT		
2		イシガメ	ニホンイシガメ					NT	NT	NT		
3			クサガメ						N-III			
4		スッポン	ニホンスッポン					DD	DD	DD		
5	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ						N-III			
6		トカゲ	ヒガシニホントカゲ						N-II			
7		タカチホヘビ	タカチホヘビ							DD		
8		ナミヘビ	シロマダラ						DD	DD		
9			ヤマカガシ							DD		
計	2目	7科	9種	0種	0種	0種	0種	3種	7種	6種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

⑤ 魚類の重要な種

調査区域において確認記録のある魚類の重要な種は、アブラボテ、ドンコ等の 10 目 21 科 48 種で、表 4-1-56(1)～(2)に示すとおりです。

なお、魚類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-56(1) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類					VU	EN	EN				
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ					EN	EN	EN				
3	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ					EN						
4			ヤリタナゴ			県指		NT	CR	CR				
5			アブラボテ					NT	DD	DD				
6			イチモンジタナゴ					CR		DD				
7			シロヒレタビラ					EN		DD				
8			カワバタモロコ		国内	県指		EN	CR	EN				
9			カワムツ						N-II					
10			ウシモツゴ				県指	CR		CR				
11			カワヒガイ					NT		CR				
12			タモロコ						N-II					
13			イトモロコ							NT				
14			スゴモロコ						VU					
15			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ					NT	DD	VU		
16					ニシシマドジョウ						N-II	VU		
17	トウカイコガタスジシマドジョウ							EN	EN	EN				
18	フクドジョウ	ホトケドジョウ					EN	EN	EN					
19	ナマズ	ギギ	ネコギギ					EN		CR				
20		アカザ	アカザ					VU	EN	NT				
21	サケ	シラウオ	シラウオ							VU				
22		サケ	サツキマス(アマゴ)					NT	VU	DD				
23	トゲウオ	クダヤガラ	クダヤガラ									NT		
24		ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ						N-III					
25	ダツ	メダカ	ミナミメダカ					VU	VU	VU				
26		サヨリ	クルマサヨリ					NT	DD	DD				
27	スズキ	メバル	タケノコメバル									NT		
28		カジカ	カマキリ						VU	EN				
29			カジカ						NT	EN				
30			ウツセミカジカ(降海回遊型)						VU					
31		ダンゴウオ	ホテイウオ									DD		
32		ドンコ	ドンコ							EN				
33		カワアナゴ	カワアナゴ						N-III	NT				
34		ハゼ	ヒモハゼ						NT	VU	VU			
35			シロウオ						VU	CR				
36			チワラスボ						EN		DD			
37	トビハゼ							NT	CR	VU				
38	アカハゼ											NT		
39	ボウスハゼ									VU				
40	マサゴハゼ							VU		VU				

表 4-1-56(2) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
41	スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ						N-II			
42			オオヨシノボリ							NT		
43			ピリンゴ						N-II			
44			キセルハゼ					EN		CR		
45			エドハゼ					VU	NT	NT		
46			コモチジャコ									NT
47	カレイ	カレイ	ホシガレイ									NT
48	フグ	フグ	マフグ									NT
計	10目	21科	48種	0種	1種	2種	1種	26種	26種	32種	0種	7種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

⑥ 昆虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある昆虫類の重要な種は、コバネアオイトトンボ、ベッコウトンボ、シャープゲンゴロウモドキ等の9目54科135種で、表4-1-57(1)～(3)に示すとおりです。

なお、文献調査により確認された昆虫類の詳細な位置は、後掲の図4-1-25に示すとおりです。

表4-1-57(1) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ						NT			
2			コバネアオイトトンボ					EN	CR	CR		
3			オツネイトンボ						NT			
4		イトトンボ	ベニイトトンボ						NT	CR	VU	
5			モートンイトトンボ						NT	VU	NT	
6			オオイトトンボ							CR	EN	
7		カワトンボ	アオハダトンボ						NT	NT		
8			ニホンカワトンボ							EN		
9		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ						NT	NT	NT	
10			アオヤンマ						NT	VU	EN	
11			カトリヤンマ							NT		
12		サナエトンボ	キイロサナエ						NT	EN	NT	
13			ホンサナエ							VU		
14			タバサナエ							NT	VU	
15			フタスジサナエ							NT	EN	VU
16			オグマサナエ							NT		VU
17		エゾトンボ	トラフトンボ							EN	NT	
18			キイロヤマトンボ							NT	CR	NT
19			ハネビロエゾトンボ							VU	VU	VU
20			エゾトンボ								CR	VU
21		トンボ	ベッコウトンボ		国内					CR	CR	CR
22			ヨツボシトンボ								NT	
23			ハッチョウトンボ								EN	
24			キトンボ								CR	EN
25			ノシメトンボ									NT
26			マイコアカネ								NT	
27			オオキトンボ							EN	CR	CR
28	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ								NT	
29	カマキリ	カマキリ	ヒナカマキリ								NT	
30	バッタ	クツワムシ	タイワンクツワムシ								NT	
31		マツムシ	クチキコオロギ								NT	
32		コオロギ	クチナガコオロギ							NT		
33		ヒバリモドキ	ハマスズ							NT	EN	
34		バッタ	ヤマトマダラバッタ							NT	NT	
35	イナゴ	ハネナガイナゴ							N-III			
36	ナナフシ	ナナフシ	エダナナフシ								DD	
37	カメムシ	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ						NT			
38		キンカメムシ	ニシキキンカメムシ								DD	
39	アメンボ	オオアメンボ									NT	
40		エサキアメンボ							NT	N-III	NT	
41		ババアメンボ							NT	DD	VU	

表 4-1-57(2) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
42	カメムシ	ミズムシ(昆)	ホッケミズムシ					NT	VU	DD		
43		コオイムシ	コオイムシ					NT	N-III			
44			タガメ		国内			VU	N-III	EN		
45		タイコウチ	タイコウチ								DD	
46			ヒメタイコウチ							DD	NT	
47			ミズカマキリ								DD	
48			ナベブタムシ	トゲナベブタムシ					VU		EX	
49		チョウ	ボクトウガ	ハイロボクトウ					NT			
50	セセリチョウ		ホソバセセリ								NT	
51			ギンイチモンジセセリ					NT	N-H	NT		
52			ミヤマチャバネセセリ								EN	
53			オオチャバネセセリ							N-H		
54	シジミチョウ		オオミドリシジミ								NT	
55			ウラナミアカシジミ							VU		
56			クロシジミ					EN	VU	CR		
57			ヒメシジミ本州・九州亜種					NT	EN	CR		
58	タテハチョウ		コムラサキ							N-H		
59			ウラギンスジヒョウモン					VU	NT	VU		
60			オオウラギンスジヒョウモン								NT	
61			ヒメヒカゲ本州中部亜種			県指	県指	CR	CR	EN		
62			ウラジャノメ本州亜種							NT	EN	
63			ヒメジャノメ							N-III		
64			サトキマダラヒカゲ							N-III		
65			クモガタヒョウモン							NT		
66			ホシミスジ東北・中部地方亜種							NT		
67			オオムラサキ					NT	N-III	NT		
68			ウラナミジャノメ本土亜種					VU	EN	VU		
69	アゲハチョウ		ギフチョウ					VU	VU	VU		
70	シロチョウ		ツマグロキチョウ					EN		NT		
71			スジボソヤマキチョウ								CR	
72	ツトガ		ゴマフツトガ					NT				
73	ヤママユガ		オナガミズアオ本土亜種					NT				
74	ヒトリガ		シロホソバ					NT				
75	ヤガ		ガマヨトウ					VU	NT			
76			キスジウスキヨトウ					VU		NT		
77			シラユキコヤガ					VU		NT		
78		キシタアツバ					NT					
79		オオチャバネオトウ					VU	EN	NT			
80	コウチュウ	オサムシ	ツツイキバナガミズギワゴミムシ					NT		EN		
81			コハンミョウモドキ					EN		EN		
82			ジャアナヒラタゴミムシ					VU		VU		
83			ホラズミヒラタゴミムシ							NT		
84			キベリマルクビゴミムシ					EN		CR		
85			フタモンマルクビゴミムシ					EN		EX		
86			エチゴトックリゴミムシ					NT				
87			オオトックリゴミムシ					NT		NT		
88			イグチケブカゴミムシ					NT				

表 4-1-57(3) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
89	コウチュウ	オサムシ	ハマベゴミムシ					NT		VU		
90			ハバメクラチビゴミムシ							EN		
91		ハンミョウ	カワラハンミョウ					EN	VU	EX		
92			アイヌハンミョウ					NT	N-III	NT		
93		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ					NT	NT	VU		
94			ゲンゴロウ					VU	EN	EN		
95			コガタノゲンゴロウ					VU	CR	EX		
96			シャープゲンゴロウモドキ		国内				CR		EX	
97			マルガタゲンゴロウ					VU	N-I	EX		
98			シマゲンゴロウ					NT	N-III	NT		
99			スジゲンゴロウ					EX	EX	EX		
100			マダラシマゲンゴロウ		国内				CR		EX	
101			マルケシゲンゴロウ						NT			
102			ルイスツブゲンゴロウ						VU	VU		
103	シャープツブゲンゴロウ						NT					
104	キベリマメゲンゴロウ						NT	N-III				
105	ミズスマシ	ミズスマシ						VU	VU	EN		
106		コオナガミズスマシ						VU		NT		
107	コガシラミズムシ	キイロコガシラミズムシ						VU		EN		
108		マダラコガシラミズムシ						VU	DD	NT		
109	コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ						VU	N-III	NT		
110	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ								NT		
111	ガムシ	スジヒラタガムシ						NT	N-III			
112		コガムシ						DD	NT			
113		ガムシ						NT	NT	VU		
114		シジミガムシ						EN				
115	エンマムシ	エンマムシ								DD		
116	シデムシ	ヤマトモンシデムシ						NT	N-I	VU		
117	クワガタムシ	オオクワガタ						VU		CR		
118	コガネムシ	ヤマトアオドウガネ								NT		
119		アカマダラハナムグリ						DD	N-III	NT		
120		ヤマトケシマグソコガネ									NT	
121		マルエンマコガネ									EX	
122		ヒゲコガネ								NT		
123		クロカナブン									NT	
124	ヒメドロムシ	ヨコミヅドロムシ						VU		NT		
125	タマムシ	クロマダラタマムシ								VU		
126	コメツキムシ	サトヤマシモフリコメツキ									NT	
127		ジュウジミズギワコメツキ									NT	
128		アカアシコハナコメツキ									NT	
129	ホタル	ヘイケボタル								N-III		
130	ゴミムシダマシ	ヤマトオサムシダマシ						NT	NT			
131	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ						EN	VU	EN		
132	ハムシ	カツラネクイハムシ									VU	
133		ツヤネクイハムシ								DD		
134	ゾウムシ	ハマベゾウムシ							NT	NT		
135	ハチ	ハキリバチ	キヌゲハキリバチ								NT	
計	9目	54科	135種	0種	4種	1種	1種	77種	77種	95種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

⑦ 底生生物の重要な種

調査区域において確認記録のある底生生物の重要な種は、マルタニシ、マツカサガイ等の 8 目 33 科 64 種で 表 4-1-58(1)～(2)に示すとおりです。

なお、文献調査により確認された底生生物の詳細な位置は、後掲の図 4-1-25 に示すとおりです。

表 4-1-58(1) 文献により確認された底生動物の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	古腹足	ニシキウズガイ	イボキサゴ					NT		EN		
2	アマオブネガイ	アマオブネガイ	ヒロクチカノコガイ					NT		VU		
3			ウミヒメカノコガイ					VU				
4		タニシ	マルタニシ					VU	NT	NT		
5			オオタニシ					NT	NT			
6		ウミニナ	ウミニナ					NT		NT		
7			イボウミニナ					VU		CR		
8		トゲカワニナ	タケノコカワニナ					VU	CR	EX		
9		カワニナ	クロダカワニナ					NT	NT	NT		
10		キバウミニナ	フトヘナタリガイ					NT		NT		
11			ヘナタリガイ					NT		NT		
12		タマキビ	モロハタマキビ							NT		
13		ワカウラツボ	カワグチツボ					NT		NT		
14	カワザンショウガイ		クリイロカワザンショウガイ					NT		NT		
15			ツブカワザンショウガイ					NT		NT		
16			ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ					NT	NT	NT		
17			ヨシダカワザンショウガイ					NT	NT	VU		
18			ホラアナゴマオカチグサガイ						CR+EN	NT	EN	
19		エゾマメタニシ	マメタニシ					CR	EN	CR		
20		ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ					NT		NT		
21			ミズゴマツボ					VU		VU		
22		トウカムリ	カズラガイ							NT		
23	頭楯	カノコキセワタ	ヤミヨキセワタ					VU				
24	汎有肺	トウガタガイ	カキウラクチキレモドキ							NT		
25			ヒガタヨコイトカケギリ					DD		NT		
26		オカミミガイ	ナラビオカミミガイ					VU		EN		
27			オカミミガイ					VU		EN		
28			ハマシイノミガイ							DD		
29			キヌカツギハマシイノミガイ						VU		CR	
30			ナギサノシタタリガイ								VU	
31		モノアラガイ	イグチモノアラガイ					DD				
32			モノアラガイ					NT	NT	DD		
33		ヒラマキガイ	カワネジガイ					CR		EX		
34			ヒダリマキモノアラガイ					CR+EN	CR	EX		
35			ヒラマキミズマイマイ					DD	NT	NT		
36			ミズコハクガイ					VU	VU	VU		
37			ヒラマキガイモドキ					NT	NT	NT		

表 4-1-58 (2) 文献により確認された底生動物の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
38	イシガイ	イシガイ	フネドブガイ								DD		
39			ササノハガイ					VU			CR		
40			イシガイ						NT		CR		
41			カタハガイ					VU			EX		
42			マツカサガイ					NT	CR	CR			
43			ドブガイ (ヌマガイorタガイ)								NT		
44			ヤハズヌマガイ (注3)										
45			マルスダレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ					NT			
46	シジミ	ヤマトシジミ						NT	NT				
47		マシジミ						VU	NT	DD			
48	マルスダレガイ	ハマグリ						VU		NT			
49	フジノハナガイ	フジノハナガイ						NT		NT			
50	ニッコウガイ	サビシラトリガイ						NT		EN			
51		ユウシオガイ						NT		NT			
52		サギガイ						NT		VU			
53	シオサザナミ	オチバガイ								VU			
54	バカガイ	オオトリガイ						NT		DD			
55	チドリマスオ	クチバガイ						NT					
56	マテガイ	オオマテガイ								DD			
57		マテガイ								NT			
58	異靱帯	オキナガイ		オヤイヅオキナガイ					VU		VU		
59				コオキナガイ					CR+EN		CR		
60				ソトオリガイ							NT		
61	オオノガイ	オオノガイ		オオノガイ					NT		NT		
62		クチベニガイ	ヌマコダキガイ					CR+EN					
63		ニオガイ	ウミタケ					VU		CR			
64		ベンケイガニ	クシテガニ									NT	
65			ベンケイガニ									NT	
計	8目	33科	65種	0種	0種	0種	0種	50種	17種	54種	0種	2種	

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト ((公) リバーフロント研究所、令和3年)」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

注3) ヤハズヌマガイは、本事業の計画段階環境配慮書についての豊橋市長意見において希少な種として言及され、川瀬らによる論文等においてもその希少性が確認されたことから、本書では重要な動物として取り扱う。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の重要な種

調査区域において確認記録のあるクモ類の重要な種は、カネコトタテグモ、ミカワホラヒメグモ等の1目8科19種で、表4-1-59に示すとおりです。

なお、クモ類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-59 文献により確認されたクモ類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	クモ	カネコトタテグ	カネコトタテグモ					NT	NT	VU			
2		トタテグモ	キノボリトタテグモ					NT	NT	VU			
3			キシノウエトタテグモ					NT	NT	VU			
4		ユウレイグモ	アケボノユウレイグモ						N-II	EN			
5		ホラヒメグモ	ミカワホラヒメグモ				県指			CR			
6		コガネグモ	オニグモ						NT				
7			コガネグモ						NT	NT			
8			トリノフンダマシ								NT		
9			オオトリノフンダマシ								NT		
10			シロオビトリノフンダマシ								NT		
11			アカイロトリノフンダマシ								NT		
12			トゲグモ								VU		
13			ゲホウグモ								NT		
14			コモリグモ	シッチコモリグモ								EN	
15		イサゴコモリグモ									EN		
16		カコウコモリグモ									VU		
17		ミナミコモリグモ									NT		
18		ネコグモ	オビジガバチグモ								NT		
19		カニグモ	オビボソカニグモ								VU		
計	1目	8科	19種	0種	0種	0種	1種	3種	6種	18種	0種	0種	

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

(b) 陸産貝類の重要な種

調査区域において確認記録のある陸産貝類の重要な種は、ベニゴマオカタニシ、オモイガケナマイマイ等の4目14科46種で、表4-1-60(1)～(2)に示すとおりです。

なお、文献調査により確認された陸産貝類の詳細な位置は、後掲の図4-1-25に示すとおりです。

表 4-1-60(1) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1	オキナエビス	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ					NT		NT					
2			ベニゴマオカタニシ					VU	NT	VU					
3		ヤマキサゴ	ヤマキサゴ							VU					
4	ニナ	ヤマタニシ	トウカイヤマトガイ					VU	DD	VU					
5			サドヤマトガイ					NT		DD					
6		ムシオイガイ	ムシオイガイ							NT					
7	オカミガイ	ケンガイ	ケンガイ					NT		DD					
8	マイマイ	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT					
9		キバサナギガイ	クチマガリスナガイ					VU	NT						
10			スナガイ					NT		VU					
11			ナタネキバサナギガイ					VU	NT						
12		マキゾメガイ	ヒラドマルナタネガイ							NT					
13		キセルガイモドキ	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ							NT				
14				フトキセルガイモドキ							DD				
15		キセルガイ	キセルガイ	オオギセル					NT						
16				トノサマガセル					NT		VU				
17				ホソヤカギセル					NT		NT				
18				ハチノコギセル					NT		NT				
19				ツメギセル					NT						
20				チュウゼンジギセル					NT						
21				クビナガギセル					VU		VU				
22				キイツムガタギセル					NT						
23				トカラコギセル							CR+EN		CR		
24				ヒロクチコギセル							CR+EN		CR		
25				エルベリギセル							DD				
26				ミカワギセル							NT		NT		
27				ナメクジ	イボイボナメクジ					NT	DD	NT			
28		ベッコウマイマイ	ベッコウマイマイ	ヒラベッコウ					DD		VU				
29				キヌツヤベッコウ					DD						
30				ヒメハリマキビ					NT		NT				
31				スジキビ					NT	NT	NT				
32				カサネシタラガイ					NT	NT	NT				
33				ウメムラシタラガイ					NT		NT				
34				オオウエキビ					DD						
35	イセキビ							DD							
36	キイキビ							DD							
37	タカキビ							NT		NT					
38	ヒメカサキビ							NT		NT					

表 4-1-60(2) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
39	マイマイ	ナンバンマイマイ	ヒロウドマイマイ					DD		NT		
40			ヒメヒロウドマイマイ					VU				
41			キヌヒロウドマイマイ					NT				
42		オナジマイマイ	イシマキシロマイマイ					VU	NT	VU		
43			ヒルゲンドルフマイマイ					NT		NT		
44			オモイガケナマイマイ		国内		県指	CR+EN	CR	CR		
45			ミカワマイマイ					CR+EN	EN	CR		
46			ミヤマヒダリマキマイマイ					VU	NT	VU		
計		4目	14科	46種	0種	1種	0種	1種	41種	12種	33種	0種

注1) 種名及び配列は主に「日本陸産貝類総目録（日本陸産貝類総目録刊行会，昭和63年）」に準拠した。
 注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-51に示すとおりである。

⑨ 注目すべき生息地の状況

調査地域における注目すべき生息地としては、環境省が選定している「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（重要湿地）として、「三河湾」、「東三河・渥美半島湧水湿地群」、「遠州灘海岸」があります。また、環境省が選定している「生物多様性上重要な里地里山」（重要里地里山）として、「石巻山周辺」があります。

重要湿地及び重要里地里山の詳細は、後述の社会的状況の章（環境の保全を目的として法令等により指定された地域の状況）に示すとおりです。

注目すべき生息地の状況の位置図は、図 4-1-25 に示すとおりです。

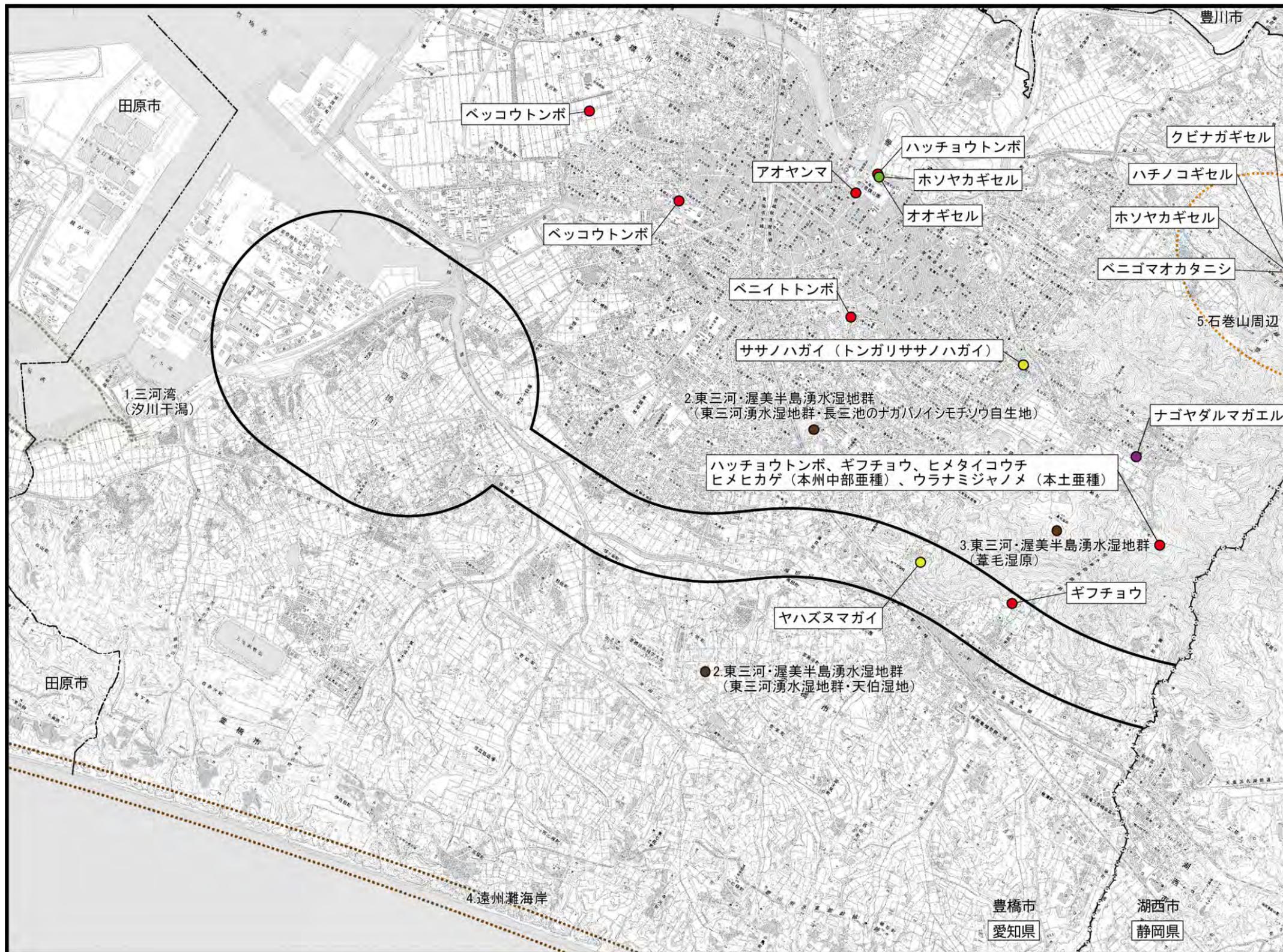
表 4-1-61 注目すべき生息地

No	生息域	生物分類群	選定基準・理由	選定基準
1	汐川干潟	シギ・チドリ類	春秋の渡り期の種数・個体数が多い。ミユビシギ，シロチドリなどの渡来地。	2, 3, 4
		底生動物	豊富な底生動物相。オオノガイ，ヤミヨキセワタ，イボウミニナ，ヒロクチカノコ，ヒナユキスズメ，キヌカツギハマシイノミ，オカミミガイ，ワカウラツボ，ウモレベンケイガニなどの生息地。	3, 4
2	東三河湧水湿地群	湿原植生	【天伯湿地，長三池のナガバノイシモチソウ自生地，黄柳野湿地，椈のシデコブシ自生地，伊川津シデコブシ自生地，黒河湿地，藤七原湿地など】シデコブシが多く生育する湿地が多く存在するほか，ナガバノイシモチソウなどの希少種が多くみられる。	1, 2
3	葦毛湿原	湿原植生	多様な植物群落によって構成され，その中には固有種も多く見られる。	1, 2
		昆虫類	ハッチョウトンボ，ヒメタイコウチ，ヒメヒカゲなどの生息地。	2, 3
4	遠州灘海岸の沖	ウミガメ	渥美半島から御前崎周辺までの遠州灘海岸は本州最大のアカウミガメの産卵地。御前崎港などの港湾や導流堤の整備で砂浜環境は大きな影響を受けているが，産卵は行われている。日本では最も距離の長い砂浜海岸。	1, 5
5	石巻山周辺	—	市の北部に位置し、古くから信仰の対象とされてきた石巻山周辺から平田、岩本等の周辺集落までを含む地域である。 山頂付近の石灰岩地形では特有の植物・動物が多く見られ、周辺ではエナガやキビタキ、ヒメボタルなど里地里山に特徴的な種が生息している。また、石巻山南麓の三ツ口池周辺では、豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカの生息も確認されている。	a, b, c

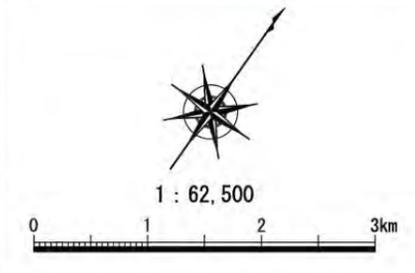
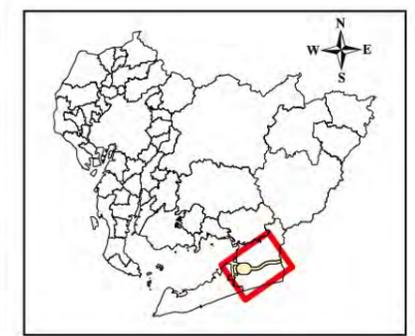
注1) 選定基準は以下のとおりである。

1. 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、さんご礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合
2. 希少種、固有種等が生育・生息している場合
3. 多様な生物相を有している場合（ただし、外来種を除く）
4. 特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合
5. 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合
 - a. 多様で優れた二次的自然環境を有する
 - b. 里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する
 - c. 生態系ネットワークの形成に寄与する

出典：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省ホームページ）
「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省ホームページ）



- 凡 例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
 - : 重要な両生類
 - : 重要な昆虫類
 - : 重要な底生動物
 - : 重要な陸産貝類
 - : 重要湿地
 - : 重要湿地
 - : 重要里地里山



出典：「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書」（環境省、昭和56年）
「サイエンスミュージアムネット」（国立科学博物館ホームページ）
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省ホームページ）
「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省ホームページ）
「三河地方初記録の淡水生二枚貝フネドブガイ」（西 浩孝、坂本博一、松岡敬二）
「愛知県名古屋、豊橋市、山梨県北杜市で発見された *Buldowskia shadini* ヤハズヌマガイ（新称）」（川瀬基弘、横山悠理、横井敦史、熊澤慶伯）

図 4-1-25 文献による重要な動物確認位置図

(3) 植物の生育及び植生の状況

1) 植物相の状況

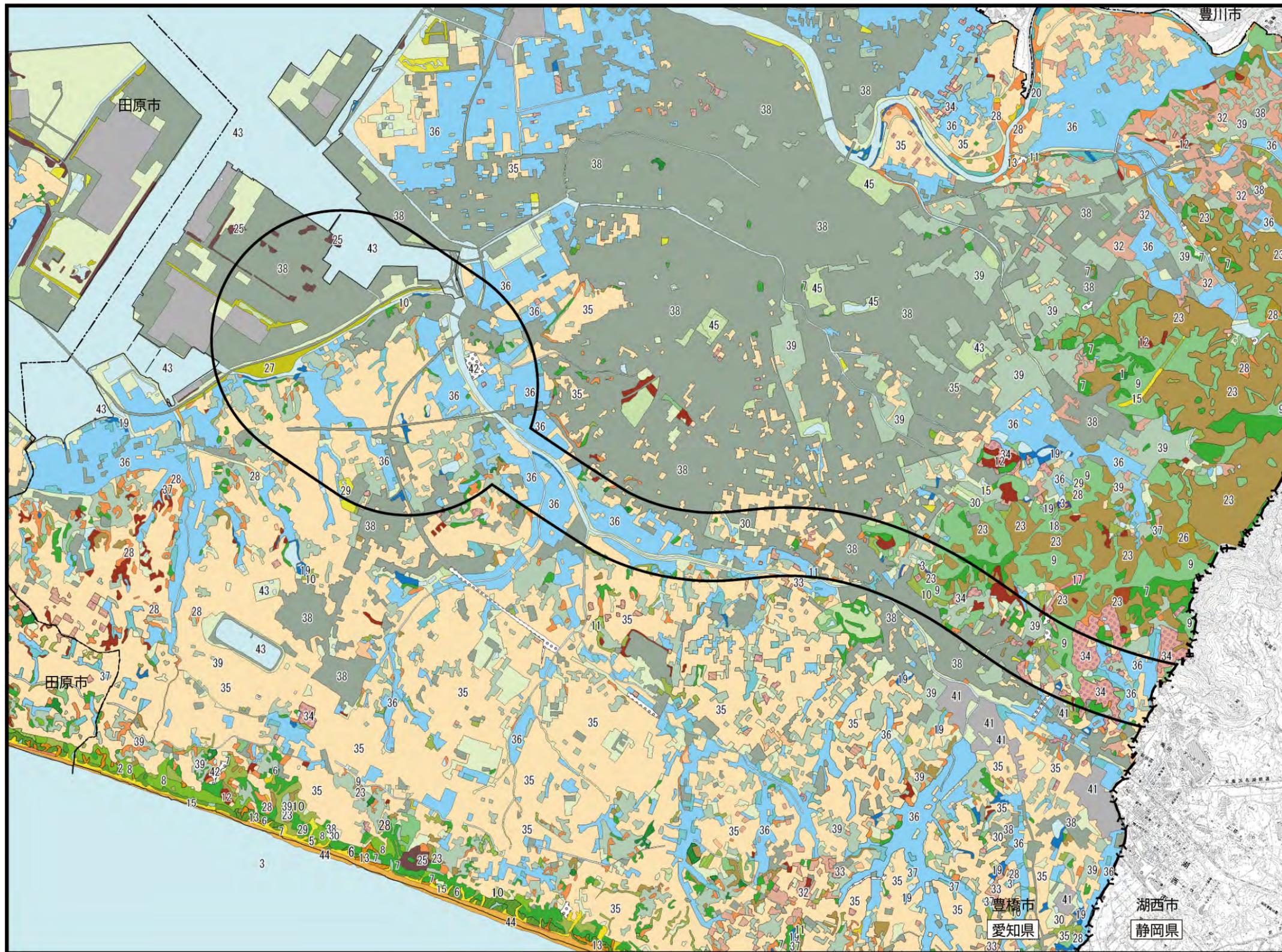
既存資料において、調査区域での確認記録がある植物は、デンジソウ、イッスンテンツキ等の 195 科 2,383 種です。

なお、植物の生育状況の把握に用いた既存文献・資料は、表 4-1-50(1)～(2)に示すとおりです。

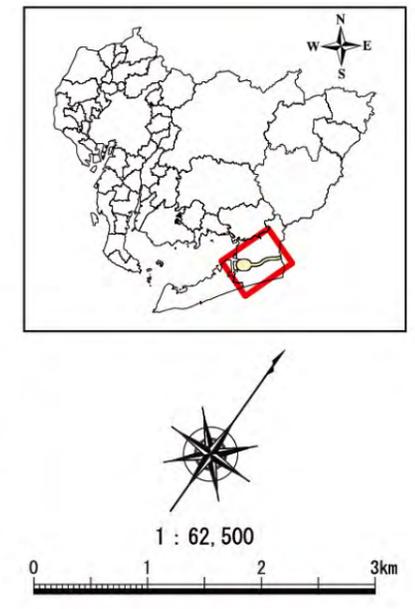
2) 植生の状況

環境省が実施した「第 6 回自然環境保全基礎調査」及び「第 7 回自然環境保全基礎調査」に基づく植生図を図 4-1-26 に示します。

事業実施区域及びその周囲には、主に水田雑草群落が広がり、北側の平地部には市街地、南側は畑雑草群落が分布し、弓張山地周辺のやや標高が高い地域ではスギ・ヒノキ・サワラ植林やコナラ群落等 (VII)、シイ・カシ二次林等が分布しています。



- 凡例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 ミズバイ
ースダシイ群集 | 23 スギ・ヒノキ・
サウラ植林 |
| 2 タブノキ群集 | 24 アカマツ植林 |
| 3 ハンノキ群集(VI) | 25 クロマツ植林 |
| 4 ヤナギ高木群集(VI) | 26 外国産樹種植林 |
| 5 マサキ
ートベラ群集 | 27 その他植林
(常緑広葉樹) |
| 6 トベラ
ーウバメガシ群集 | 28 竹林 |
| 7 シイ・カシ二次林 | 29 ゴルフ場・芝地 |
| 8 タブノキ
ーヤブニッケイ二次林 | 30 路傍・空地
雑草群落 |
| 9 コナラ群集(VII) | 31 放棄雑草群落 |
| 10 アカメガシフ
ーカラスサンショウ群集 | 32 果樹園 |
| 11 ムクノキ群集 | 33 茶畑 |
| 12 モチツツジ
ーアカマツ群集 | 34 常緑果樹園 |
| 13 メダケ群集 | 35 畑雑草群落 |
| 14 ネザサ群集 | 36 水田雑草群落 |
| 15 ススキ群集(VII) | 37 放棄水田雑草群落 |
| 16 ダンク群集 | 38 市街地 |
| 17 伐採跡地群集(VII) | 39 緑の多い住宅地 |
| 18 ヌマガヤオーダー | 40 残存・植栽樹群を
もった公園、墓地等 |
| 19 ヨシクラス | 41 工場地帯 |
| 20 オギ群集 | 42 造成地 |
| 21 ヒルムシロクラス | 43 開放水域 |
| 22 砂丘植生 | 44 自然裸地 |
| | 45 残存・植栽樹群地 |



出典：「第6回自然環境保全基礎調査植生調査」「第7回自然環境保全基礎調査植生調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ）

図 4-1-26 植生図

3) 植物の重要な種

植物の重要な種の選定基準は表 4-1-62(1)～(2)に示すとおりです。

調査区域において確認記録のある植物の重要な種は、デンジソウ、イッスンテンツキ等の 109 科 373 種で、表 4-1-63(1)～(8)に示すとおりです。

表 4-1-62(1) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> ・特別天然記念物（特天） ・天然記念物（天）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号、最終改正：令和 2 年 12 月 16 日政令第 352 号）に基づく国内希少野生動植物種等	<ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種（国内） ・緊急指定種（緊急）
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> ・県指定種（県指）
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：平成 22 年 3 月 26 日愛知県条例第 12 号）に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> ・県指定種（県指）
5	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・CR：絶滅危惧 I A 類 ・EN：絶滅危惧 I B 類 ・VU：絶滅危惧 II 類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：絶滅のおそれのある地域個体群
6	「まもりたい静岡県の野生生物 2020-静岡県静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>-」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・EX：絶滅 ・EW：野生絶滅 ・CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・CR：絶滅危惧 I A 類 ・EN：絶滅危惧 I B 類 ・VU：絶滅危惧 II 類 ・NT：準絶滅危惧 ・DD：情報不足 ・LP：地域個体群 要注目種：（静岡県独自の 카테고리） <ul style="list-style-type: none"> ・N-I：現状不明 ・N-II：分布上注目種等 ・N-III：部会注目種

表 4-1-62(2) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
7	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020-植物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和 2 年 3 月）の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> ・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧 I 類 ・ CR：絶滅危惧 I A 類 ・ EN：絶滅危惧 I B 類 ・ VU：絶滅危惧 II 類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群
8	「愛知県立自然公園条例」（昭和 43 年 3 月 29 日愛知県条例第 7 号、最終改正：令和 4 年 7 月 5 日愛知県条例第 41 号）に基づく石巻山多米県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○：愛知指定

表 4-1-63(1) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
1	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ							N-III	VU	
2	イワヒバ	イヌカタヒバ						VU			
3	ミズニラ	ミズニラ						NT	VU	NT	
4	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ								EN	
5		ヒロハハナヤスリ								VU	
6	マツバラシ	マツバラシ						NT	VU	VU	○
7	デンジソウ	デンジソウ						VU	CR	CR	
8	サンショウモ	オオアカウキクサ						EN	VU	CR	
9		アカウキクサ						EN	VU	CR	
10		サンショウモ						VU	VU	CR	
11	ホングウシダ	ハマホラシノブ								NT	
12	コバノイシカグマ	フモトカグマ								VU	
13		イシカグマ								NT	
14		オオフジシダ									○
15	イノモトソウ	タキシダ						EN	VU	EN	
16		ヤツガタケシノブ						NT	N-I		
17		マツサカシダ								EN	
18		ハチジョウシダモドキ								VU	
19		ナチシダ									○
20	ナヨシダ	エビラシダ								EN	
21	チャセンシダ	カミガモシダ							EN	EN	
22		ヒノキシダ							VU	EN	
23		クモノスシダ									○
24		コタニワタリ							N-III	EN	
25		アオガネシダ									○
26	ヒメシダ	ツクシヤワラシダ								VU	
27		テツホシダ							N-III	EX	
28		メニッコウシダ							N-III		
29	メシダ	ウスバシケシダ						VU		VU	
30		アサマシケシダ								VU	
31		ニセコクモウクジャク							VU	EN	
32		シマシロヤマシダ								EN	
33		コクモウクジャク								VU	
34	オシダ	ツクシイワヘゴ							N-III	NT	
35		タカサゴシダ						NT	N-II	EN	
36		ヌカイタチシダモドキ							N-III		
37		ワカナシダ								EN	
38		アツキノヌカイタチシダマガイ								VU	
39		オワセベニシダ								VU	
40		タニヘゴ								VU	
41		ナンカイイタチシダ								NT	
42		オリヅルシダ									EX
43		シノブ	シノブ								
44	ウラボシ	ヌカボシクリハラン								EN	
45		クラガリシダ						EN	EN	EN	
46		イワヒトデ									○

表 4-1-63(2) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
47	ヒノキ	ハイネズ								VU	
48	スイレン	ヒメコウホネ					VU	DD	CR		
49		ヒツジグサ						EN			
50	ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ								VU	
51		ヒメカンアオイ									○
52		イワタカンアオイ					VU	VU	EN		
53	モクレン	シデコブシ					NT		VU		
54	クスノキ	ニッケイ					(NT)				
55		シロモジ						VU			
56	サトイモ	キシダマムシグサ								VU	
57		オオマムシグサ								VU	
58	チシマゼキショウ	イワショウブ								VU	
59	オモダカ	アギナシ					NT	VU			
60	トチカガミ	スブタ					VU	VU	CR		
61		ヤナギスブタ								NT	
62		トチカガミ					NT	VU	EN		
63		ムサシモ					EN	EN	EN		
64		ヒロハトリゲモ								VU	
65		イトトリゲモ					NT	VU	NT		
66		イバラモ							N- I	CR	
67		オオトリゲモ								NT	
68		ミズオオバコ					VU	N-III			
69		シバナ	シバナ					NT	CR	NT	
70	アマモ	エビアマモ					NT	NT	NT		
71		コアマモ						NT			
72	ヒルムシロ	イトモ					NT	VU	NT		
73		ヒルムシロ							NT		
74		センニンモ						N- I	EX		
75		ツツイトモ					VU	VU			
76		ササバモ							EN		
77		リュウノヒゲモ					NT	EN			
78	カワツルモ	カワツルモ					NT	VU	NT		
79	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ						N-III	NT		
80	シュロソウ	エンレイソウ							EN		
81		シライトソウ								○	
82		バイケイソウ								○	
83		ミカワバイケイソウ					VU	EN	EN	○	
84	ユリ	ヒロハノアマナ					VU	CR	EN		
85		カタクリ						N-III		○	
86		ミノコバイモ					VU		EN		
87		ヤマユリ								○	
88		ササユリ								○	
89		アマナ							N-III		

表 4-1-63(3) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
90	ラン	ヒナラン					EN	EN	EX	
91		シラン					NT	NT	NT	○
92		マメヅタラン					NT	NT		
93		ムギラン					NT	NT		
94		エビネ					NT	NT	NT	○
95		ナツエビネ					VU	VU	VU	○
96		ギンラン						N-III		
97		キンラン					VU	NT	NT	○
98		ナギラン					VU	VU	CR	
99		コアツモリソウ					NT	VU	EN	
100		クマガイソウ					VU	VU	VU	
101		イチヨウラン						VU	NT	
102		サワラン						CR	CR	○
103		タシロラン					NT	NT	NT	
104		アキザキヤツシロラン							VU	
105		ナヨテンマ					EN	EN	CR	
106		クロヤツシロラン						NT		
107		アケボノシュスラン						N-III		
108		シュスラン						N-III	VU	
109		オオミズトンボ					EN	EN	EX	
110		ムカゴソウ					EN	VU	EX	
111	ホクリクムヨウラン							VU		
112	クロムヨウラン							VU		
113	エンシュウムヨウラン						VU			
114	ギボウシラン					EN	N-III	EN		
115	コ克蘭								○	
116	フウラン					VU	VU	EN		
117	ヒメフタバラン						N-III			
118	サギソウ					NT	VU	VU	○	
119	ヤマサギソウ							VU		
120	トキソウ					NT	EN	EN	○	
121	ヤマトキソウ						VU	VU		
122	キンバイザサ	コキンバイザサ					N-III	EN		
123	アヤメ	ヒオウギ						EN		
124		ノハナショウブ								○
125		カキツバタ					NT	VU	VU	
126	ヒガンバナ	ステゴビル					VU	EN	EN	○
127		ハマオモト							EX	
128	クサスギカズラ	キジカクシ							EX	
129	ガマ	ヤマトミクリ					NT	VU	VU	
130		ナガエミクリ					NT	NT		
131	ホシクサ	シラタマホシクサ					VU	VU	VU	○
132		クロホシクサ					VU	EN	EN	

表 4-1-63(4) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
133	カヤツリグサ	イトテンツキ						NT	VU	NT	
134		ミノボロスゲ									VU
135		ハリガネスゲ								VU	
136		ヤマアゼスゲ								N-III	
137		ホソバヒカゲスゲ								VU	
138		キノクニスゲ							NT		NT
139		サワヒメスゲ								VU	
140		キシウナキリスゲ							VU	VU	NT
141		アワボスゲ								EN	CR
142		ヒメモエギスゲ									VU
143		ジングウスゲ							NT	VU	NT
144		センダイスゲ								NT	VU
145		ヌマガヤツリ									NT
146		オオシロガヤツリ									VU
147		シロガヤツリ								N-III	
148		ヒメガヤツリ									VU
149		カガシラ							VU	VU	CR
150		セイタカハリイ									VU
151		チャボイ							VU		
152		マシカクイ								N-II	VU
153		クグテンツキ									VU
154		イッスンテンツキ							CR	CR	CR
155		トラノハナヒゲ									EN
156		オオイヌノハナヒゲ									VU
157		ミクリガヤ							EN	EN	CR
158		タイワンヤマイ								N-I	
159		ノグサ									EN
160		ミカワシンジュガヤ							VU	EN	VU
161		コシンジュガヤ									VU
162		ケシンジュガヤ								N-III	
163		イネ	ハネガヤ							VU	EN
164			ヒメコヌカグサ							NT	NT
165	コウヤザサ									N-III	
166	ヒナザサ								NT	VU	VU
167	アラゲメシバ										VU
168	イトスズメガヤ										VU
169	ウンヌケモドキ								NT	VU	VU
170	ウンヌケ								VU	VU	NT
171	アズマガヤ									VU	
172	カモノハシ										VU
173	タキキビ										EN
174	ウキシバ									N-III	NT
175	ハマエノコロ										NT
176	オニシバ										NT
177	マツモ	ゴハリノマツモ								EN	
178	ツヅラフジ	ハスノハカズラ							N-III		
179	メギ	ヘビノボラズ								NT	

表 4-1-63(5) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
180	キンボウゲ	イチリンソウ						N-III		
181		カザグルマ					NT	VU	EN	○
182		クサボタン							VU	
183		トリガタハンショウヅル								○
184		セツブンソウ					NT	VU	VU	○
185		ミスミソウ					NT	VU	NT	○
186		オキナグサ					VU	EN	CR	
187		シギンカラマツ							NT	
188		アワブキ	ヤマヒワ						EN	
189	ヤマモガシ	ヤマモガシ						VU		
190	ツゲ	ツゲ					N-III	VU		
191	マンサク	コウヤミズキ						VU		
192	スグリ	ヤブサンザシ						VU	VU	
193	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ							NT	
194	タコノアシ	タコノアシ					NT	NT	NT	
195	アリノトウグサ	タチモ					NT	EN	NT	
196	マメ	シバハギ							CR	
197		サイカチ							VU	
198		オオバヌスビトハギ							VU	
199		イタチササゲ							VU	
200		レンリソウ						VU	VU	
201		チョウセンキハギ					VU			
202		イヌハギ					VU	EN	VU	
203		ミソナオシ							VU	
204		クサフジ						VU		
205		ヨツバハギ							VU	
206	オオバクサフジ							NT		
207	ヒメハギ	カキノハグサ							○	
208		ヒナノカンザシ						VU		
209	クロウメモドキ	ケンボナシ							EN	
210		ハマナツメ					VU	EX		
211	アサ	コバノチョウセンエノキ						EN	EN	
212	クワ	カジノキ							EN	
213	イラクサ	ヤナギイチゴ							NT	
214		ミヤマミズ							EN	
215	バラ	ヒロハノカワラサイコ					VU	N- I	CR	
216		ハスノハイチゴ						NT		
217		ミヤマワレモコウ						VU	EN	
218		ナガボノアカワレモコウ						N-III		
219		イワシモツケ							CR	
220	ブナ	ナラガシワ							EN	
221		フモトミズナラ							NT	
222	ヤマモモ	ヤチヤナギ				県指			CR	
223	カバノキ	サクラバハンノキ					NT	NT		
224	ニシキギ	ウメバチソウ							○	
225	ホルトノキ	ホルトノキ							VU	
226	トウダイグサ	ハギクソウ					CR		CR	
227		シナノタイゲキ							VU	
228	コミカンソウ	ヒツツバハギ						EN		
229		カンコノキ						EN	VU	
230	ヤナギ	キヌヤナギ							NT	
231	スマレ	キスマレ						VU	CR	

表 4-1-63(6) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
232	アマ	マツバニンジン					CR	EN	CR	
233	オトギリソウ	アゼオトギリ					EN	EN	EN	
234	ミソハギ	ヒメミソハギ							NT	
235		エゾミソハギ							VU	
236		ミズマツバ					VU	NT		
237		ヒメビシ					VU	EN	EN	
238		オニビシ							NT	
239		アカバナ	ウスゲチョウジタデ					NT	NT	
240	ムクロジ	ハナノキ					VU		CR	
241	アオイ	ハマボウ							VU	
242	アブラナ	ミズタガラシ							NT	
243		コイヌガラシ					NT	N-III		
244	イソマツ	ハマサジ					NT	EX	NT	
245	タデ	オオツルイタドリ							CR	
246		ナガバノヤノネグサ						N- I	EN	
247		サトヤマタデ							NT	
248		サイコクヌカボ					VU	VU	NT	
249		ヤナギヌカボ					VU	NT		
250		ナガバノウナギツカミ					NT	N-III	NT	
251		コギシギシ					VU	EN		
252	モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ				県指	VU	EN	CR	
253		シロバナナガバノイシモチソウ				県指			CR	
254		イシモチソウ					NT	VU	EN	
255	ナデシコ	オオヤマフスマ							VU	
256	ヒユ	ハチジョウイノコヅチ							NT	
257		ホソバハマアカザ						N-III		
258		ハマアカザ						N- I	VU	
259		イノホウキギ						N- I	NT	
260		マルバアカザ							NT	
261		カワラアカザ							NT	
262		ミドリアカザ					CR	N-III		
263		イワアカザ					CR		CR	
264		ハママツナ						N- I		
265		アジサイ	ユガクウツギ							EN
266	サクラソウ	オオツルコウジ					EN	EN	DD	
267		ノジトラノオ					VU		CR	
268		トウサワトラノオ					EN		EN	
269	ハイノキ	クロミノニシゴリ						NT		
270		カンザブドウノキ							VU	
271	イワウメ	ヤマイワカガミ								○
272	ツツジ	カイナンサラサドウダン						VU		○
273		イワナンテン								○
274		サツキ								○
275		レンゲツツジ								○
276		ナガボナツハゼ				県指	CR	EN	CR	
277	アカネ	ナガバジュズネノキ						VU	EN	
278		キクムグラ							NT	
279		ミヤマキヌタソウ							CR	
280		ルリミノキ							NT	
281		イナモリソウ						N-III		
282		ハクチョウゲ					EN			

表 4-1-63(7) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
283	リンドウ	コケリンドウ							VU	
284		ムラサキセンブリ					NT	VU	VU	
285		イヌセンブリ					VU	NT	NT	
286	マチン	ヒメナエ					VU	VU	CR	
287	キョウチクトウ	コイケマ							NT	
288		シタキシソウ							VU	
289		クサタチバナ					NT	EN	CR	
290		フナバラソウ					VU	N-III	EN	
291		クサナギオゴケ					VU	NT	NT	
292		タチガシワ							CR	
293		スズサイコ					NT	NT		
294		ヒルガオ	マメダオシ					CR	N-III	EX
295	ナス	ヤマホオズキ					EN	EN	VU	
296	ムラサキ	ホタルカズラ							EN	
297		ムラサキ					EN	EN	EX	
298	イワタバコ	イワタバコ								○
299	オオバコ	オオアブノメ					VU	VU	VU	
300		トウオオバコ							EN	
301		ヒシモドキ					EN		EX	
302		イヌノフグリ					VU	NT		
303		カワヂシャ					NT			
304		ゴマノハグサ	ゴマノハグサ					VU	N- I	EX
305	シソ	タチキランソウ					NT	NT		
306		ダンギク					VU			
307		タニジャコウソウ					NT		EN	
308		ジャコウソウ							VU	
309		キセワタ					VU	EN	CR	
310		マネキグサ					NT	NT		
311		シロネ							NT	
312		ヒメハッカ					NT	VU	EX	
313		ヤマジソ					NT	VU	VU	
314		ミズネコノオ					NT	EN	VU	
315		ミズトラノオ					VU	EN	VU	
316		ハマクサギ							CR	
317		シマジタムラソウ					VU	VU	NT	
318		ミヅコウジュ					NT	NT		
319		ヒメナミキ						VU	NT	
320	コナミキ					VU	EN	EN		
321	ホナガツナミソウ						N-III			
322	イブキジャコウソウ							CR		
323	カリガネソウ						NT			
324	ハエドクソウ	スズメノハコベ					VU	VU	NT	
325	ハマウツボ	ゴマクサ					VU	EN	VU	
326		ミカワシオガマ					VU	EX	EN	○
327		シオガマギク							EN	
328		ヒキヨモギ						N-III	NT	
329		オオヒキヨモギ					VU	NT		

表 4-1-63(8) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
330	タヌキモ	イヌタヌキモ					NT	VU			
331		ミカワタヌキモ					VU	EN	EN		
332		コタヌキモ						EN	EX		
333		ヒメタヌキモ					NT	EN	EN		
334		ヒメミカキグサ					EN	EN	EN		
335		ムラサキミカキグサ					NT	VU	NT		
336		タヌキモ					NT	VU			
337		クマツヅラ	イワダレソウ							NT	
338	モチノキ	ナナミノキ							VU		
339	キキョウ	サワギキョウ						NT			
340		キキョウ					VU	VU	VU		
341	ミツガシワ	ミツガシワ						N-II	EX		
342		ヒメシロアサザ					VU	EN	EN		
343		ガガブタ					NT	VU	NT		
344	キク	エンシュウハグマ								○	
345		フクド					NT		EN		
346		ヒメヨモギ							CR		
347		ヒメシオン							VU		
348		ヤマジノギク							CR		
349		ヤナギノギク					VU	VU	VU		
350		ヒゴタイ					VU		EX	○	
351		イズハハコ					VU	NT	VU		
352		フジバカマ					NT	VU	EN		
353		サケバヒヨドリ							NT		
354		ミズギク						N-III	NT		
355		カセンソウ							EN		
356		ノニガナ						N-III			
357		ミコシギク					VU	CR	CR	○	
358		ネコノシタ							NT		
359		ホクチアザミ						N-II	VU		
360		ミヤコアザミ							VU		
361		ヒメヒゴタイ					VU	EN	EX		
362		キクアザミ							EN		
363		ウラギク					NT	VU			
364		セリ	アシタバ							NT	
365			ミシマサイコ					VU	VU	EN	
366			ハナウド							VU	
367	イブキボウフウ								VU		
368	フキヤミツバ						VU	EN	CR		
369	ヌマゼリ						VU	EN	EX		
370	ガマズミ	レンブクソウ						N-III			
371	スイカズラ	ヤマヒョウタンボク						N-III			
372		マツムシソウ							NT		
373		イワツクバネウツギ					VU	EN	EN		
計		109科	373種	0種	0種	0種	3種	153種	212種	274種	43種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-62に示すとおりである。

4) 重要な植物群落等

① 特定植物群落

「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)、
「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)及び「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)によると、調査区域では、特定植物群落として、「葦毛(イモウ)湿原」等の4件が確認され、それらの名称や位置は表4-1-64及び図4-1-27に示すとおりです。

事業実施区域においては、特定植物群落は存在しません。

表4-1-64 特定植物群落

No.	調査回	名称	選定基準	相観区分	面積(ha)
1	2	石巻山石灰岩地植物群落	D	暖温帯夏緑広葉低木林	3.0
2	2	葦毛(イモウ)湿原	D	湿地植生	3.0
3	3	多米峠北部イヌツゲ自生地	H	個体(群)	1.0
4	3	牟呂八幡宮のスダジイ林	E	暖温帯植生	2.5

注) 選定基準は以下のとおりである。

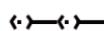
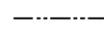
- A: 原生林もしくはそれに近い自然林
- B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
- C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群
- D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの。
- F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群
- H: その他、学術上重要な植物群落又は個体群

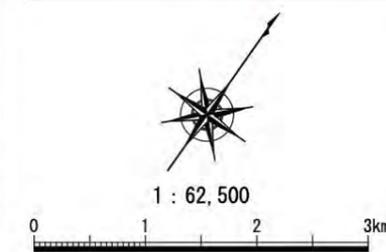
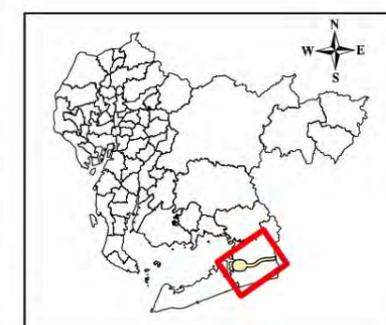
出典: 「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)

「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)

「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)



- 凡 例
-  : 都市計画対象道路事業実施区域
 -  : 県境
 -  : 市町村界
 -  : 特定植物群落



出典：「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)
「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)
「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)

図 4-1-27 特定植物群落

② 巨樹・巨木林

「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成7年、環境庁）、「第6回自然環境基礎調査巨樹・巨木フォローアップ調査報告書」（平成13年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）によると、調査区域では、巨樹・巨木林として20件が確認され、それらの名称や位置は表4-1-65及び図4-1-28に示すとおりです。

事業実施区域においては、「No.16 大崎イチョウ」の1件の巨樹・巨木林が存在します。

表 4-1-65 巨樹・巨木林

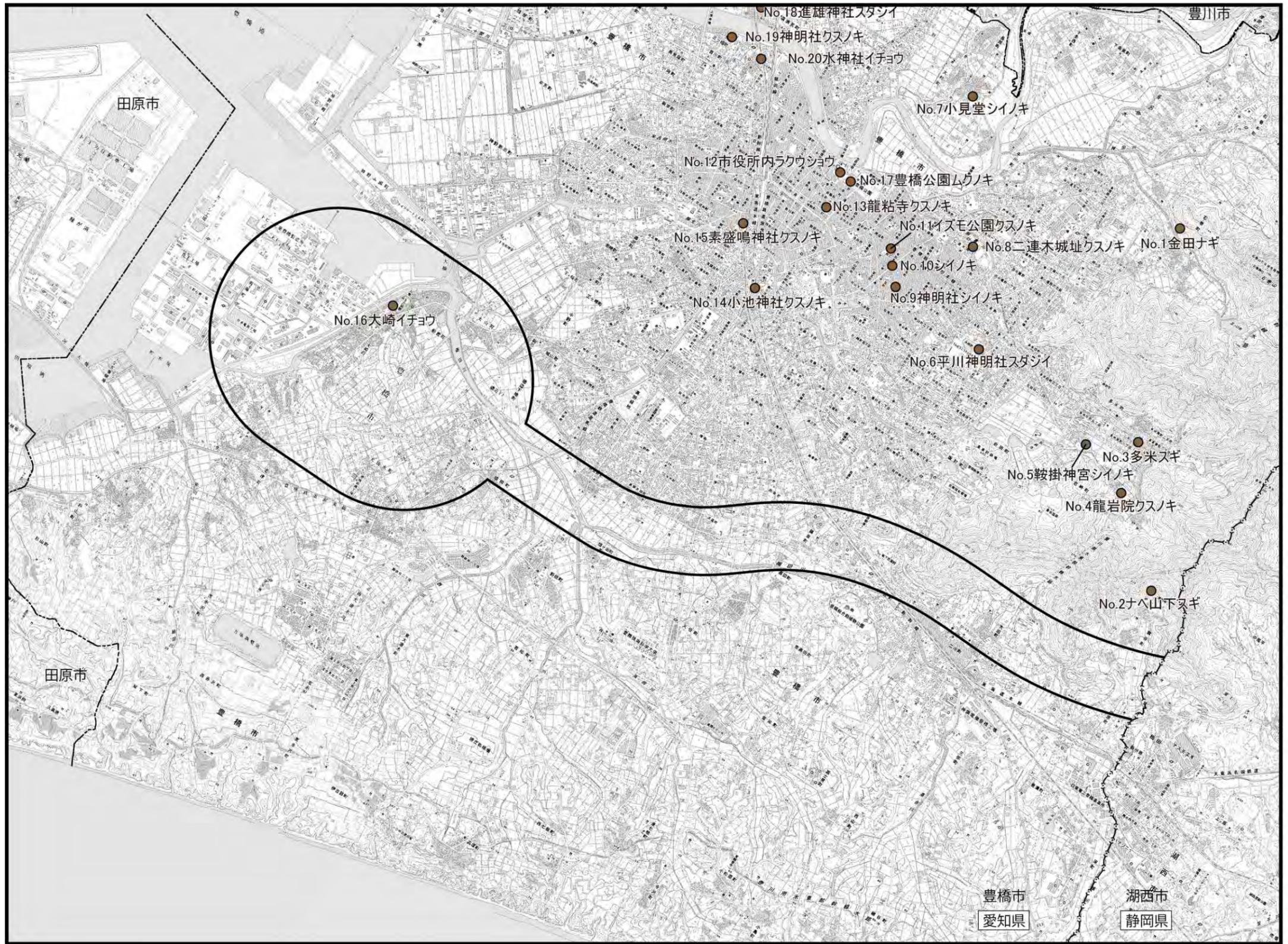
No.	所在地	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	豊橋市	金田ナギ	ナギ	600	18
2		ナベ山下スギ	スギ	560	31
3		多米スギ	スギ	300	15
4		龍岩院クスノキ	クスノキ	393	25
5		鞍掛神宮シイノキ	シイノキ	360	25
6		平川神明社スダジイ	スダジイ	360	15
7		小見堂シイノキ	シイノキ	650	20
8		二連木城址クスノキ	クスノキ	330	20
9		神明社シイノキ	シイノキ	注2	10
10		シイノキ	シイノキ	343	18
11		イズモ公園クスノキ	クスノキ	300	15
12		市役所内ラクウショウ	ラクウショウ	486	25
13		龍粘寺クスノキ	クスノキ	600	20
14		小池神社クスノキ	クスノキ	300	15
15		素盛鳴神社クスノキ	クスノキ	335	20
16		大崎イチョウ	イチョウ	400	10
17		豊橋公園ムクノキ	ムクノキ	340	13
18		進雄神社	スダジイ	312	13
19		神明社	クスノキ	381	20
20		水神社	イチョウ	341	25

注1) 地点番号は図4-1-28に対応する。

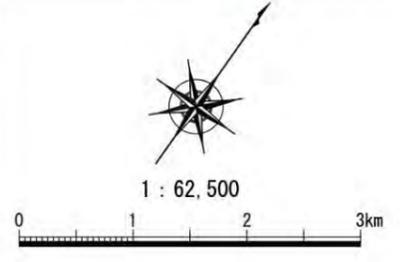
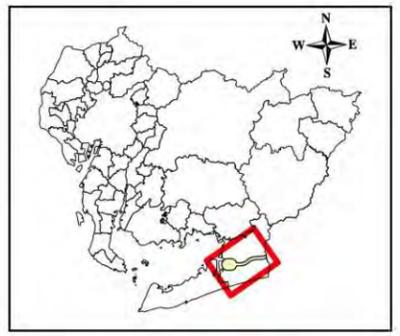
注2) 神明社シイノキの幹周は記録されていない。

出典：「第6回自然環境基礎調査巨樹・巨木フォローアップ調査報告書」（平成13年、環境省自然環境局生物多様性センター）

「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成7年、環境庁）



- 凡 例
- : 都市計画対象道路
事業実施区域
 - ◁▷ : 県境
 - : 市町村界
 - : 巨樹・巨木林



出典：「第6回自然環境基礎調査巨樹・巨木フォローアップ調査報告書」（平成13年、環境省自然環境局生物多様性センター）
「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」（平成7年、環境庁）

図 4-1-28 巨樹・巨木林位置図

③ 文化財指定されている樹木等（天然記念物）

調査区域では、天然記念物（植物）として 10 件が確認され、それらの名称や位置は表 4-1-66 及び図 4-1-29 に示すとおりです。

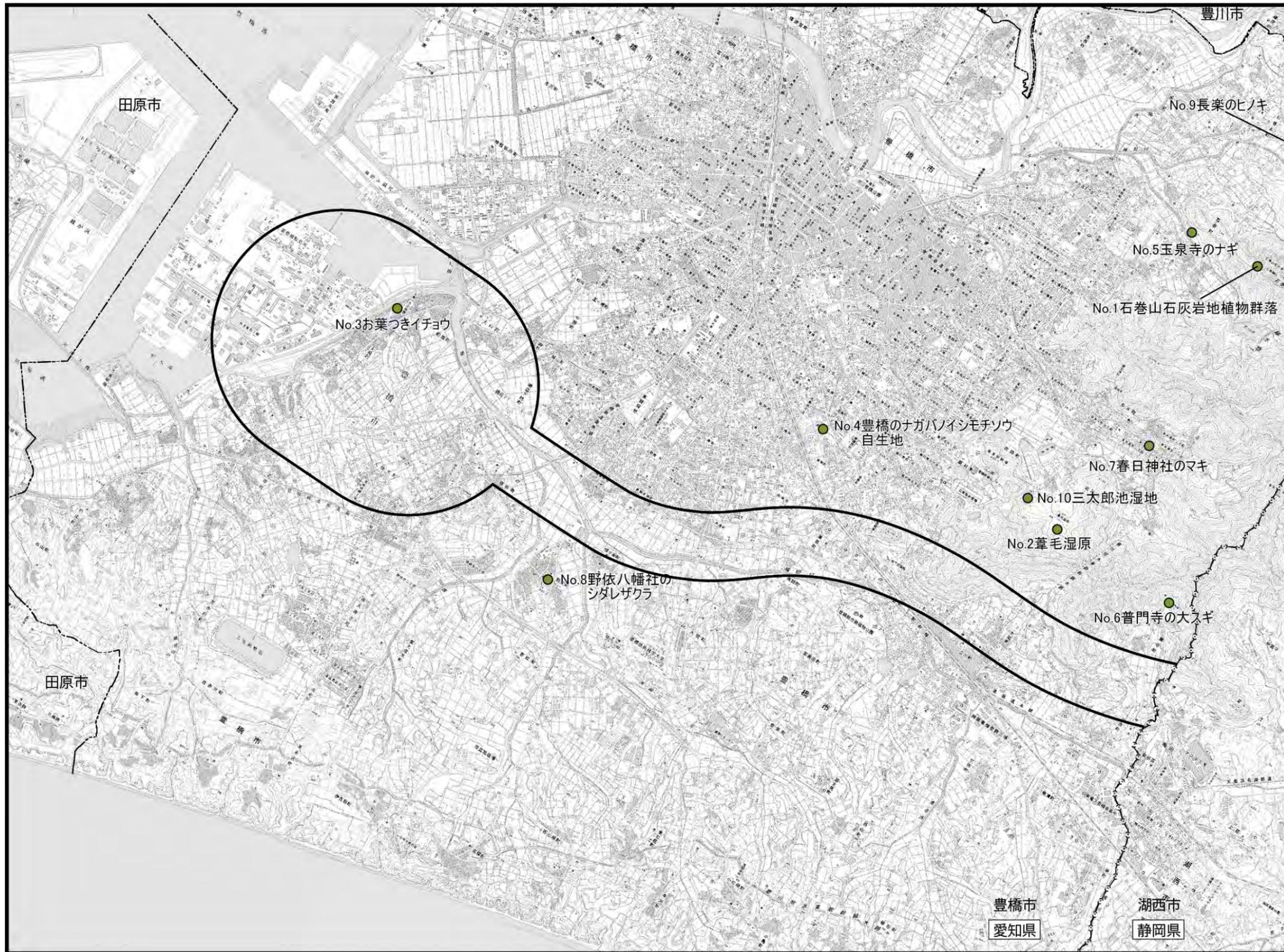
事業実施区域においては、「No. 3 お葉つきイチョウ」の 1 件の天然記念物（植物）が存在します。

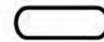
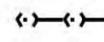
表 4-1-66 植物に係る天然記念物

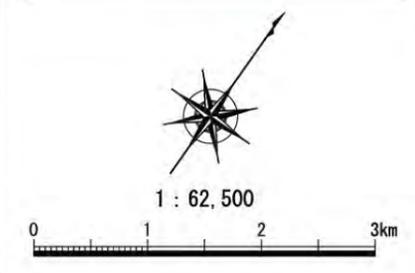
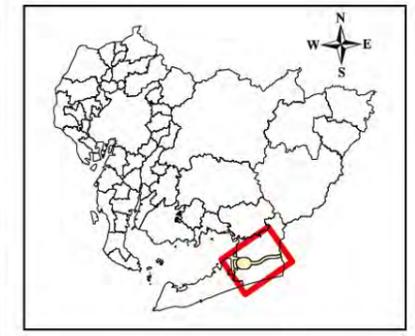
No.	指定	名称	所在地	指定年月日
1	国	石巻山石灰岩地植物群落	豊橋市石巻町字南山 93	昭和 27 年 10 月 11 日
2	国	葦毛湿原	豊橋市岩崎町字長尾・南山	令和 3 年 10 月 11 日
3	県	お葉つきイチョウ	豊橋市船渡町字城戸中 20	昭和 30 年 7 月 1 日
4	県	豊橋のナガバノイシモチソウ 自生地	豊橋市佐藤町字池下 4-1	令和 3 年 8 月 6 日
5	市	玉泉寺のナギ	豊橋市石巻町字寺前 11	昭和 32 年 9 月 19 日
6	市	普門寺の大スギ	豊橋市雲谷町字ナベ山下 7	昭和 43 年 6 月 19 日
7	市	春日神社のマキ	豊橋市多米東町 1-20-3	昭和 42 年 2 月 17 日
8	市	野依八幡社のシダレザクラ	豊橋市野依町字八幡 1	平成 11 年 2 月 22 日
9	市	長楽のヒノキ	豊橋市石巻本町字板取 17	昭和 50 年 1 月 21 日
10	市	三太郎池湿地	豊橋市岩崎町字長尾 75-1	令和 5 年 10 月 27 日

注) 地点番号は図4-1-29に対応する。

出典：「郷土の文化財資料 豊橋市の文化財」（豊橋市美術博物館ホームページ）



- 凡 例
-  : 都市計画対象道路事業実施区域
 -  : 県境
 -  : 市町村界
 -  : 天然記念物 (植物)



出典：「郷土の文化財資料 豊橋市の文化財」(豊橋市美術博物館ホームページ)

図 4-1-29 天然記念物 (植物) 位置図

(4) 生態系の状況

1) 自然環境の類型化

豊橋市自然環境保全基礎調査報告書（平成 27 年 3 月、豊橋市）を参考とし、調査区域における自然環境区分を表 4-1-67 のとおり区分しました。自然環境類型区分図を図 4-1-30 に、自然環境類型区分の横断模式図を図 4-1-31 に示します。

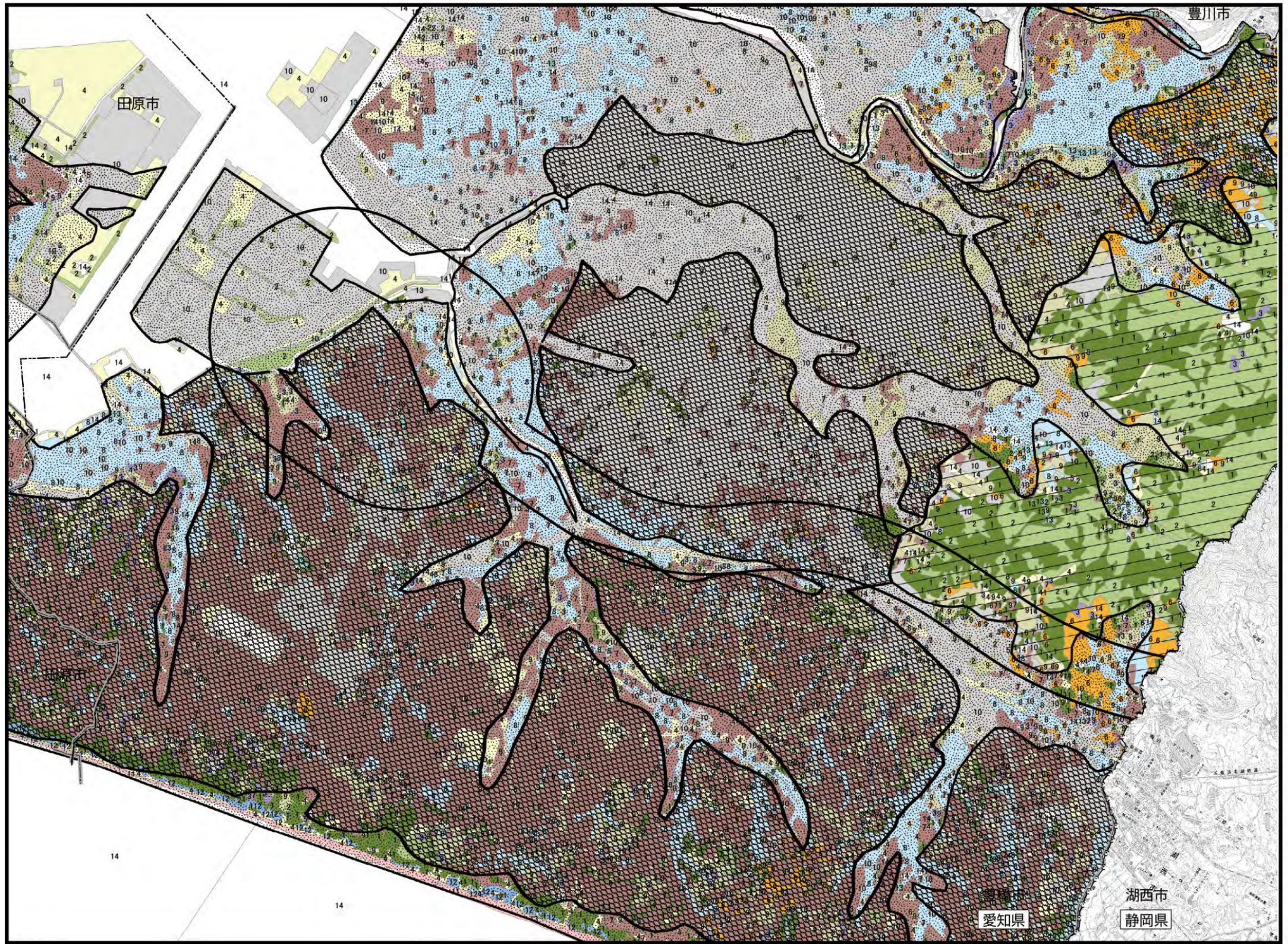
地形については、豊橋市東部の静岡県と愛知県の県境付近に位置する弓張山地一帯の「山地」、豊橋市南部の天伯台地等の「台地」、豊川及び梅田川、柳生川等の河川沿いの「低地」の 3 つに区分されます。

植生については、環境省の植生図によると、ミミズバイースダジイ群集などの常緑広葉樹の自然林や二次林、ハンノキ群落やコナラ群落など落葉広葉樹の二次林、スギ、ヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹の自然林や植林、ヨシクラス、ヒルムシロクラス、砂丘植生等の様々なタイプが見られます。

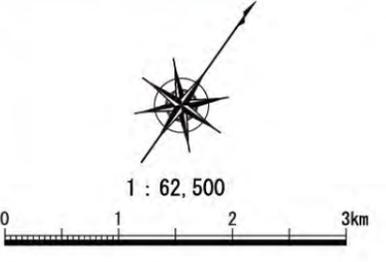
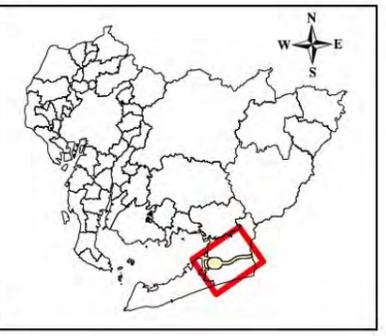
表 4-1-67 自然環境の類型区分の概況

No	地形区分	主な植生・土地利用	特徴
1	山地	<ul style="list-style-type: none"> ・スギ・ヒノキ・サワラ植林 ・コナラ群落 ・シイ・カシ二次林 ・ミミズバイースダジイ群集 ・ハンノキ群落など 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に樹林が広がり、山裾にはため池が点在する。 ・スギやヒノキの人工林が広がり、コナラやシイ類の二次林も多い。 ・ミミズバイースダジイ群集やハンノキ群落等の自然林がわずかに点在する。
2	台地	<ul style="list-style-type: none"> ・畑地雑草群落、市街地 ・シイ・カシ二次林 ・ミミズバイースダジイ群集 ・トベラーウバメガシ群集 ・ヨシクラス等 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に畑地や市街地が広がり、ため池が点在する。 ・表浜沿岸の海食崖にはトベラーウバメガシ群集などの海岸風衝低木林が見られる。 ・神社等にミミズバイースダジイ群集が残存する。 ・ため池周辺にヨシクラスなどが生育する。
3	低地	<ul style="list-style-type: none"> ・水田雑草群落、市街地 ・ヨシクラス 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に水田や市街地が広がる。 ・豊川ではヨシクラス、オギ群集等の草地、ヤナギ群落

出典：「豊橋市自然環境保全基礎調査 報告書」（平成 27 年 3 月、豊橋市）



- 凡例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
- 環境類型区分
- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 樹林地 (人工林以外) | 2 人工林 |
| 3 竹林 | 4 草地 (陸域) |
| 5 人工草地 | 6 果樹園 |
| 7 畑地 | 8 水田 |
| 9 緑の多い住宅地・公園・墓地等 | |
| 10 その他の市街地・工場地帯 | |
| 11 自然裸地 | |
| 12 樹林地 (人工林以外: 海岸) | |
| 13 草地 (水域) | 14 開放水域 |
- 地形分類図
- | | |
|----|------|
| 山地 | 台地段丘 |
| 低地 | |



出典：「20万分の1 土地分類基本調査(GIS データ) 土壌図」(国土交通省国土政策局ホームページ)

図 4-1-30 自然環境類型区分

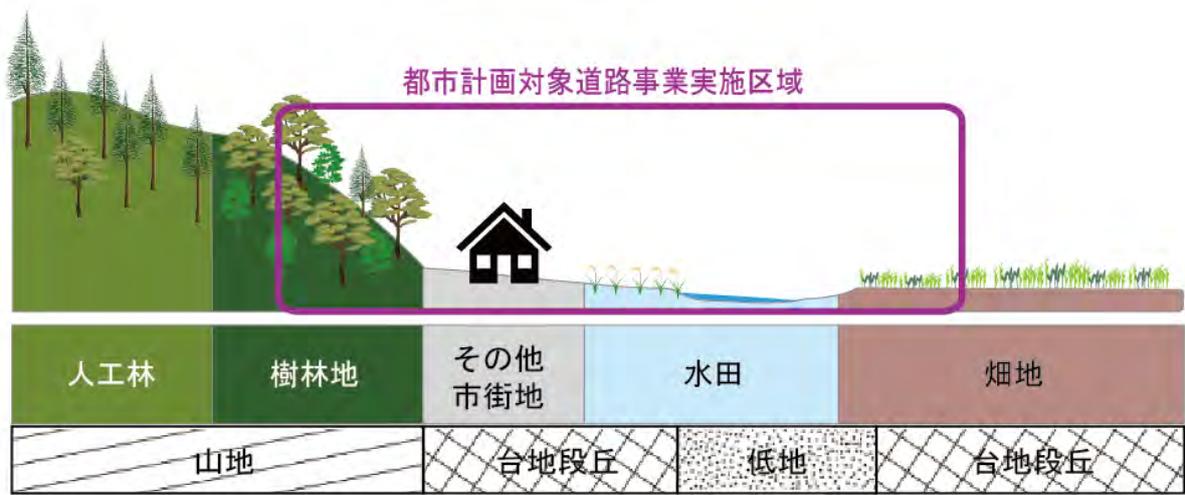


図 4-1-31 自然環境類型区分の横断模式図

2) 生態系エリア

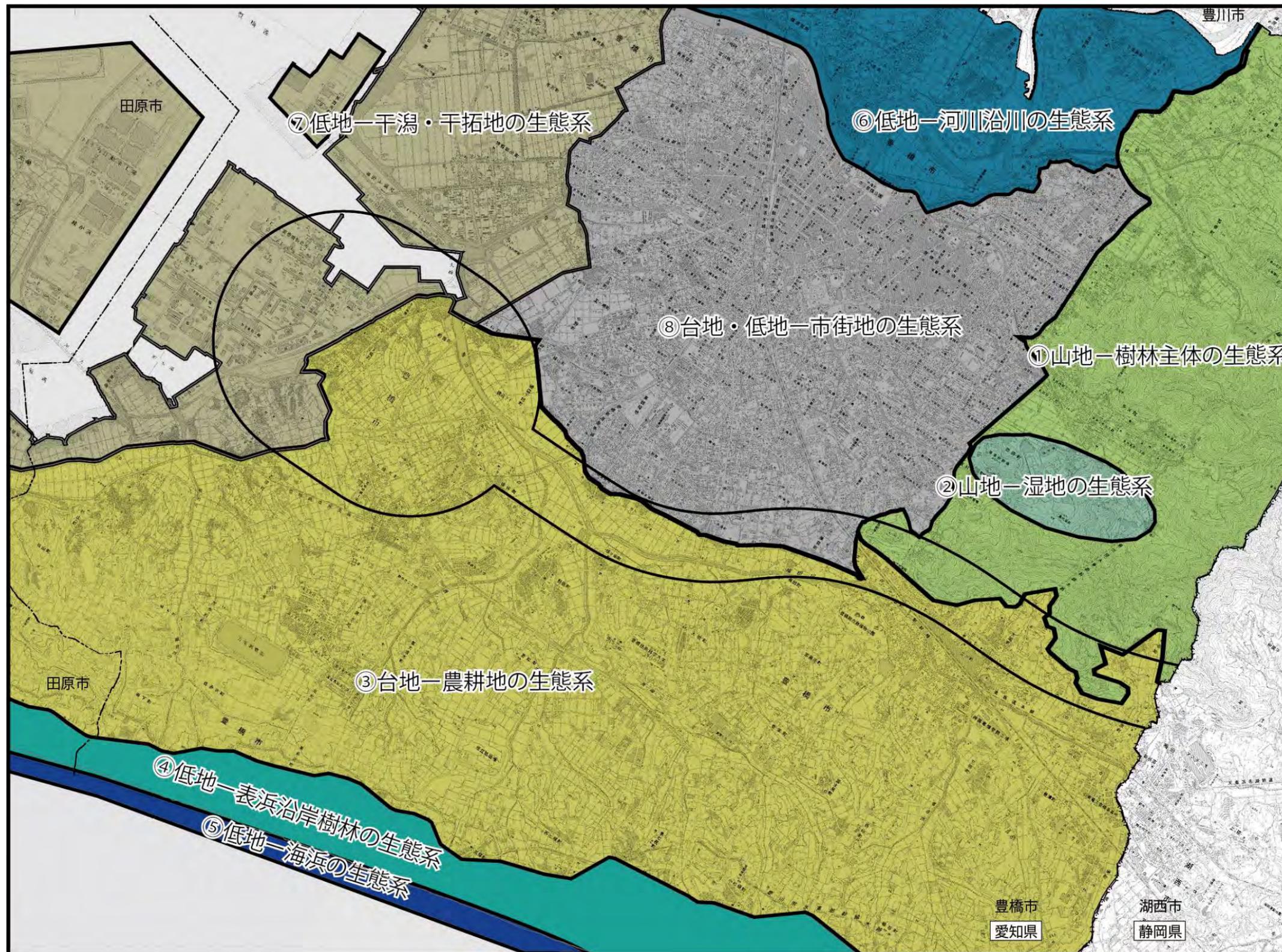
豊橋市自然環境保全基礎調査報告書（平成 27 年 3 月、豊橋市）を参考とし、調査区域における生態系エリアを表 4-1-68 のとおり区分しました。生態系エリア区分図を図 4-1-32 に示します。

豊橋市東部の弓張山地一帯を中心とした「山地－樹林主体の生態系」及び「山地－湿地の生態系」、豊橋市南部の天伯台地等を中心とした「台地－農耕地の生態系」、遠州灘を中心とした「低地－表浜沿岸樹林の生態系」及び「低地－海浜の生態系」、豊川周辺を中心とした「低地－河川沿川の生態系」、三河湾沿いの干潟周辺を中心とした「低地－干潟・干拓地の生態系」、豊橋市街地を中心とした「台地・低地－市街地の生態系」の 8 区分となりました。

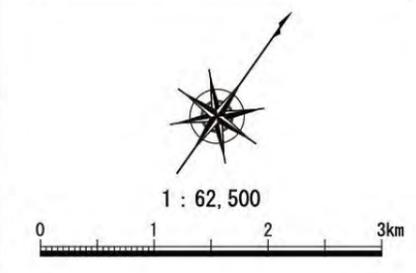
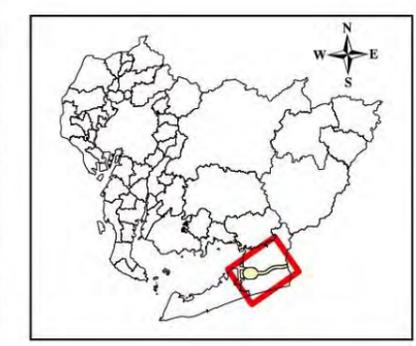
このうち、事業実施区域が通過または周辺に位置する 5 つの生態系エリアについて、注目すべき種を抽出することとしました。

表 4-1-68 生態系エリアの区分の概況

No.	生態系区分	注目種の選定対象
①	山地－樹林主体の生態系	○
②	山地－湿地の生態系	○
③	台地－農耕地の生態系	○
④	低地－表浜沿岸樹林の生態系	×
⑤	低地－海浜の生態系	×
⑥	低地－河川沿川の生態系	×
⑦	低地－干潟・干拓地の生態系	○
⑧	台地・低地－市街地の生態系	○



- 凡 例
- : 都市計画対象道路事業実施区域
 - : 県境
 - : 市町村界
- 生態系区分
- : ①山地-樹林主体の生態系
 - : ②山地-湿地の生態系
 - : ③台地-農耕地の生態系
 - : ④低地-表浜沿岸樹林の生態系
 - : ⑤低地-海浜の生態系
 - : ⑥低地-河川沿川の生態系
 - : ⑦低地-干潟・干拓地の生態系
 - : ⑧台地・低地-市街地の生態系



出典：「豊橋市自然環境保全基礎調査 報告書」（平成 27 年 3 月、豊橋市）をもとに作図

図 4-1-32 生態系エリア区分図

3) 主な動物相、植物相の状況

自然環境の生態系区分を基に、調査区域に生息又は生育が想定される代表的な動物物を表 4-1-69 に示します。

表 4-1-69 自然環境の類型区分と生息・生育が想定される動植物

生態系区分	主な生息・生育基盤	主な動物種	主な植物種
山地－樹林主体	<ul style="list-style-type: none"> スギ・ヒノキ・サワラ植林 コナラ群落 シイ・カシ二次林 ミミズバイースダジイ群集 ハンノキ群落など 	ノウサギ、ニホンリス、 <u>ホンドアカネズミ</u> 、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>テン</u> 、ニホンアナグマ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、 <u>オオタカ</u> 、サシバ、ノスリ、サンコウチョウ、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジユウカラ</u> 、オオルリ、キビタキ、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>タカチホヘビ</u> 、 <u>アカハライモリ</u> 、ニシシマドジョウ、カワムツ、コノシメトンボ、リスアカネ、ミヤマセセリ、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>ミドリシジミ</u> 、 <u>ウラゴマダラシジミ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>スジグロシロチョウ</u> 、 <u>シロオビチビサビキコリ</u> 、 <u>ムラサキヒメカネコメツキ</u> 、 <u>ノコギリクワガタ</u> 、 <u>ゲンジボタル</u> 、 <u>カネコトタテグモ</u> 、 <u>キノボリトタテグモ</u> 、 <u>オモイガケナマイマイ</u> 、 <u>ヤマタニシ</u>	イワタカンアオイ、シオガマガキク、ミワカバイケイソウ、カタクリ、カノツメソウ、 <u>ヌマガヤ</u> 、 <u>シラタマホシクサ</u>
山地－湿地		ノウサギ、ホンドタヌキ、ニホンイノシシ、サシバ、ノスリ、サンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、 <u>タカチホヘビ</u> 、 <u>アカハライモリ</u> 、 <u>ホトケドジョウ</u> 、 <u>シオヤトンボ</u> 、 <u>ムカシヤンマ</u> 、 <u>ルリシジミ</u> 、 <u>ミドリシジミ</u> 、 <u>ウラゴマダラシジミ</u> 、 <u>コムラサキ</u> 、 <u>チュウガタシロカネ</u> 、 <u>ジョロウグモ</u>	ミズスギ、モウセンゴケ、サワギキョウ、スイラン、ミカヅキグサ、 <u>ヌマガヤ</u> 、 <u>シラタマホシクサ</u>
台地－農耕地	<ul style="list-style-type: none"> 畑地雑草群落、市街地 シイ・カシ二次林 ミミズバイースダジイ群集 トベラウバメガシ群集 ヨシクラス等 	ノウサギ、ハタネズミ、ホンドタヌキ、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>カルガモ</u> 、 <u>ダイサギ</u> 、 <u>アオサギ</u> 、 <u>オオタカ</u> 、 <u>カイツブリ</u> 、 <u>タマシギ</u> 、 <u>オオヨシキリ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ヤマカガシ</u> 、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ツチガエル、ニホンカナヘビ、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>マハゼ</u> 、 <u>オオヤマトンボ</u> 、 <u>ウチワヤンマ</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>ニセアカムネグモ</u> 、 <u>イナダハリゲグモ</u>	スダジイ、クロバイ、ヒサカキ、ウバメガシ、ニシキソウ、イラクサ
台地・低地－市街地		<u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、 <u>オオタカ</u> 、ヒレンジャク、メボソムシクイ、 <u>チュウサギ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンアマガエル</u> 、 <u>ニホンイシガメ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、 <u>ギンヤンマ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>ゲンジボタル</u> 、 <u>ネハコグモ</u> 、 <u>イナズマハエトリ</u>	ヨシ、クロマツ
低地－表浜沿岸樹林	<ul style="list-style-type: none"> 水田雑草群落、市街地 ヨシクラス 	ノウサギ、ホンドタヌキ、 <u>ホンドキツネ</u> 、ニホンアナグマ、 <u>マダラウミスズメ</u> 、 <u>ウトウ</u> 、 <u>カモメ</u> 、 <u>シロチドリ</u> 、 <u>コアジサシ</u> 、 <u>ヤマトサンショウウオ</u> 、 <u>クルマバツタ</u> 、 <u>ムラサキツバメ</u> 、 <u>シロスジコガネ</u> 、 <u>クロズハマベゴミムシ</u> 、 <u>ダマシ</u> 、 <u>アシブトヒメグモ</u> 、 <u>ヘリジロオニグモ</u>	スダジイ、ハチジョウススキ、ハマヒサカキ、イワタカンアオイ、 <u>コアジサイ</u>
低地－海浜		ノウサギ、 <u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>ホンドキツネ</u> 、ニホンアナグマ、 <u>マダラウミスズメ</u> 、 <u>ウトウ</u> 、 <u>カモメ</u> 、 <u>シロチドリ</u> 、 <u>コアジサシ</u> 、 <u>アカウミガメ</u> 、 <u>シロスジコガネ</u> 、 <u>クロズハマベゴミムシ</u> 、 <u>ハマベゾウムシ</u> 、 <u>ハヤテグモ</u> 、 <u>タカノハエトリ</u>	コウボウムギ、ツルナ、ハマニガナ、ハマウド、 <u>ハマアザミ</u> 、 <u>オニシバ</u>
低地－河川沿川		<u>ホンドタヌキ</u> 、 <u>イカルチドリ</u> 、 <u>イソシギ</u> 、 <u>ヤマカガシ</u> 、 <u>ナゴヤダルマガエル</u> 、 <u>アユ</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>ウグイ</u> 、 <u>オニヤンマ</u> 、 <u>キマダラセセリ</u> 、 <u>ムナグロチャイロテントウ</u> 、 <u>ヤナギハムシ</u> 、 <u>ハイイロヒメグモ</u> 、 <u>シモフリヒメグモ</u>	マダケ、 <u>エノキ</u> 、 <u>アズマガヤ</u> 、 <u>オギ</u> 、 <u>セイバンモロコシ</u>
低地－干潟・干拓地		<u>キアシシギ</u> 、 <u>イソシギ</u> 、 <u>ハマシギ</u> 、 <u>ダイゼン</u> 、 <u>ツルシギ</u> 、 <u>ウズラシギ</u> 、 <u>イカルチドリ</u> 、 <u>チュウヒ</u> 、 <u>ヤマトサンショウウオ</u> 、 <u>キセルハゼ</u> 、 <u>タウナギ</u> 、 <u>マサゴハゼ</u> 、 <u>アジイトトンボ</u> 、 <u>セスジイトトンボ</u> 、 <u>ジュウクホシテントウ</u> 、 <u>ムナグロチャイロテントウ</u> 、 <u>カウコムリグモ</u> 、 <u>ホトトギスガイ</u> 、 <u>アサリ</u> 、 <u>オカミミガイ</u> 、 <u>ヘナタリ</u>	フクド、 <u>アイアシ</u> 、 <u>シバナ</u> 、 <u>シバナ</u> 、 <u>コウボウシバ</u> 、 <u>ハマヒルガオ</u> 、 <u>ハマボウ</u>

注) 下線は注目すべき種・群集を示す

4) 注目すべき種・群集の候補の抽出

調査区域に生息・生育すると想定される動植物のうち上位性、典型性、特殊性の視点から注目される動植物の種または生物群集（以下、「注目種・群集」とします。）を抽出しました。

注目種・群集の抽出視点は、表 4-1-70 に示すとおりです。

自然環境の類型区分に従って選定した注目種・群集を表 4-1-71 に示します。

表 4-1-70 注目種・群集の抽出視点

抽出基準	注目種・群集の抽出視点
上位性	生態系の上位に位置する動物が対象となります。 上位性の視点から抽出される指標種・群集の例として、ワシ・タカ等の猛禽類やホンドキツネ、ツキノワグマ等の中・大型哺乳類等があげられます。
典型性	生態系の特徴を典型的に表す種が対象となります。 調査区域に優占する植物種または植物群落、それらを捕食する動物（一次消費者程度）、個体数が多い動物などが対象となります。
特殊性	生態系において特殊な環境であることを示す指標となる種が対象となります。 相対的に分布範囲が狭い環境、または質的に特殊な環境に生息・生育する動植物が対象となります。

表 4-1-71 地域の注目種・群集

区分	分類	名称	分布が想定される生態系区分					
			山地－ 樹林主体	山地－ 湿地	台地－ 農耕地	低地－ 干潟干拓地	台地－ 低地市街地	
上位性	哺乳類	ホンドキツネ	●		●			
		テン	●		●			
	鳥類	オオタカ	●		●		●	
		サギ類	ダイサギ			●		
			アオサギ					
典型性	哺乳類	ホンドアカネズミ	●					
		ホンドタヌキ	●		●		●	
		ハタネズミ			●			
	鳥類	カラ類	ヤマガラ	●				
			シジュウカラ					
		カルガモ			●			
		ホオジロ	●		●			
	両生類	ニホンアマガエル			●		●	
	爬虫類	ニホンカナヘビ			●		●	
		ヒガシニホントカゲ			●			
	魚類	オイカワ			●			
		マハゼ			●			
	昆虫類	アゲハ	●		●		●	
		モンキアゲハ	●					
		イチモンジセセリ	●		●		●	
		ゲンジボタル	●				●	
		シオカラトンボ			●			
		ノコギリクワガタ	●					
		ミドリシジミ類	ミドリシジミ	●				
			ウラゴマダラシジミ		●	●		
	特殊性	干潟の鳥類	シギ類	イソシギ			●	
				キアシシギ				
			イカルチドリ				●	
		塩生植物	シバナ				●	
			アイアシ					
		湿地性植物	ヌマガヤ	●	●			
			シラタマホシクサ					